令　和　３　年　度
山形市社会福祉事業団　事業報告書

Ⅰ　事　　務　　局

⑴　理事会の開催

事業団定款に基づき、下記のとおり理事会を開催した。

①　第192回理事会（４月１日）……書面開催

（審議事項）

- 常務理事の選定について

②　第193回理事会（５月13日）……山形市役所

（報告事項）

- 給食調理業務の委託契約の締結について

（審議事項）

- 令和２年度事業報告について
- 令和２年度決算の承認について
- 令和３年度補正予算について
- 次期役員候補者の選定について
- 評議員会の招集について

③　第194回理事会（５月31日）……山形市役所

- 理事長、副理事長及び常務理事の選定について
- 次期評議員選任・解任委員の選任について
- 次期評議員候補者の推薦について
- 指定放課後等デイサービス風の子運営規程の一部改正について
- 指定介護老人福祉施設菅沢荘運営規程の一部改正について
- 指定短期入所生活介護事業所（指定介護予防短期入所生活介護事業所）菅沢荘運営規程の一部改正について

④　第195回理事会（８月５日）……書面開催

- 指定介護老人福祉施設菅沢荘運営規程の一部改正について
- 指定短期入所生活介護事業所（指定介護予防短期入所生活介護事業所）菅沢荘運営規程の一部改正について

⑤　第196回理事会（９月２日）……書面開催

- 短期入所生活介護のベッドを介護老人福祉施設に転換するための転換希望事業計画書の提出について

⑥　第197回理事会（10月26日）……山形県ＪＡビル

（報告事項）

- 事業団の当面の経営改善指針に基づく取り組みの実績について
- 事業団の業務執行状況について

（審議事項）

- 居宅介護支援事業所の統廃合について
- 令和３年度補正予算について
- 職員の給与等に関する規程の一部改正について
- 契約職員就業規則の一部改正について
- 評議員会の招集について

⑦　第198回理事会（３月16日）……山形市役所

（審議事項）

- 令和３年度補正予算について
- 定款の一部変更について
- 事業団経営基本方針及び第２期経営改善指針の策定について
- 令和４年度事業計画について
- 令和４年度資金収支予算について
- 就業規則の一部改正について
- 育児休業等に関する規程の一部改正について
- 職員の給与等に関する規程の一部改正について
- 契約職員就業規則の一部改正について
- こまくさ学園運営規程等の一部改正について
- 指定一般相談支援事業所まんさく運営規程等の一部改正について
- 指定共同生活援助事業所こもれび運営規程の一部改正について
- 指定短期入所事業所こもれび運営規程の一部改正について
- 指定介護老人福祉施設菅沢荘運営規程の一部改正について
- 指定短期入所生活介護事業所（指定介護予防短期入所生活介護事業所）菅沢荘運営規程の一部改正について
- 指定居宅介護支援事業所あたご荘運営規程の一部改正について
- 指定居宅介護支援事業所どうまち運営規程の廃止について
- 給食調理業務の委託に係る契約方法及び指名業者の選定について
- 評議員会の招集について
- 公印規程の一部改正について
- 経理規程の一部改正について
- 事務局長、事務局次長、施設長及び主幹の任免について

⑵　役員の異動

①　常務理事の就任

令和３年４月１日付けで浅田秀行事務局長が理事に就任し、同日開催の理事会（書面開催）で常務理事に選定された。

②　役員の改選

令和３年５月31日開催の評議員会で下記の者９名が役員に選任された。また、同日開催の理事会で髙倉正則理事が理事長に、土田郁子理事が副理事長に、浅田秀行理事が常務理

事に選定された。

ア　役員の就任

- 理事（７名）

　髙倉　正則（理事長）　土田　郁子（副理事長）　浅田　秀行（常務理事）

　伊豆田公蔵　三瓶　典子　高野　則夫　大場由美子

- 監事（２名）

　青嶋智重子　原田　大輔

イ　役員の退任

- 理事（１名）

　大山　雅彦

③　副理事長の辞任

令和４年３月31日付けで土田郁子理事が副理事長の職を辞任した。

④　常務理事の辞任

令和４年３月31日付けで浅田秀行理事が常務理事及び理事を辞任した。

⑶　評議員会の開催

事業団定款に基づき、下記のとおり評議員会を開催した。

①　第86回評議員会（５月31日）……山形市役所

（報告事項）

- 令和２年度事業報告について

（審議事項）

- 令和２年度決算の承認について
- 令和３年度補正予算について
- 次期役員の選任について

②　第87回評議員会（11月11日）……山形県ＪＡビル

（報告事項）

- 事業団の当面の経営改善指針に基づく取り組みの実績について

（審議事項）

- 居宅介護支援事業所の統廃合について
- 令和３年度補正予算について

③　第88回評議員会（３月25日）……山形市役所

（報告事項）

- 事業団経営基本方針及び第２期経営改善指針の策定について

（審議事項）

- 令和３年度補正予算について
- 定款の一部変更について
- 令和４年度事業計画について
- 令和４年度資金収支予算について

⑷　評議員の異動

①　評議員の改選

令和３年５月31日開催の評議員選任・解任委員会で下記の者８名が評議員に選任された。

ア　評議員の就任（８名）

荒木　雅彦　　岡部　健二　　佐藤　久枝　　鈴木　晴夫

鈴木　靖子　　野口比呂美　　細矢　正利　　渡部　正美

イ　評議員の退任（２名）

伊藤　　久　　鞠子　克己

⑸　評議員選任・解任委員会の開催

①　第５回評議員選任・解任委員会（５月31日）……山形市役所

（審議事項）

• 次期評議員の選任について

⑹　評議員選任・解任委員の異動

①　評議員選任・解任委員の改選

令和３年５月13日開催の理事会で下記の者５名が評議員選任・解任委員に選任された。

ア　評議員選任・解任委員の就任（５名）

後藤　恒裕　　蜂谷　　博　　青嶋智重子

原田　大輔　　髙瀬　謙治

イ　評議員選任・解任委員の退任（１名）

佐藤　　宏

②　評議員選任・解任委員の辞任

髙瀬　謙治　　令和４年３月31日付け　辞任

⑺　運営協議会の開催

事業団定款に基づき、下記のとおり運営協議会を開催した。

①　第９回運営協議会（６月12日）……山形市役所

（協議事項）

• 令和２年度事業報告について

• 令和２年度決算について

②　第10回運営協議会（２月25日）……山形市役所

（報告事項）

• 事業団経営改善指針に基づく取り組みの実績について

（協議事項）

• 令和４年度事業計画（案）について

⑻　運営協議会委員の異動

①　運営協議会委員の改選

令和３年７月１日付けで下記の者10名が運営協議会委員に選任された。

ア　運営協議会委員の就任（10名）

伊藤　和雄　　河内　　勇　　川田　　徹　　古原　靖子

齋藤　健二　　髙橋　貴裕　　半田　佐助　　向出　耕次
米川　　秀　　渡辺　英一

イ　運営協議会委員の退任（１名）

荒木　隆俊

⑼　職員の状況について

①　職 員 数

区　　分	令和３年４月１日現在	年度中の増減			令和４年３月31日現在
		採用者	退職者	増減	
正 規 職 員	137名	１名	５名	－４名	133名
契 約 職 員	59名	８名	４名	４名	63名
パート職員	71名	６名	７名	－１名	70名
計	267名	15名	16名	－１名	266名

※正規職員には再任用職員４名を含む。常務理事を除く。

②　職員採用試験の実施状況

前年度からの職員の欠員補充を図るため、計画的に職員採用試験（全６回）を実施し、下記のとおり９名の合格者を内定した。

職種名	募集人数	受験者数	合格者	採用者
指導員・相談員・保育士	４名程度	６名	５名	５名
介　　護　　員	７名程度	11名	４名	３名
看　　護　　師	２名	２名	１名	１名
保　　健　　師	１名	０名	０名	０名

③　職員の採用について

令和３年４月１日付けで指導員・保育士７名、介護員５名及び保健師１名を採用した。また、上記の職員採用試験で合格した看護師１名を令和４年２月１日付けで採用した。

④　再任用職員の任用

再任用職員制度に基づき、再任用職員４名の任期を更新し、定年退職となった人材の有効な活用を図った。

⑤　障がい者の雇用状況

まんさくの丘、菅沢荘及びあたご荘において、障がい者５名を雇用した。

⑥　職員健康診断・ストレスチェックの実施状況

ア　例年のとおり職員の健康診断を実施した。（実施者197名）

イ　職員のストレスチェックを例年のとおり実施した。（実施者194名）

⑽　経営基本方針及び第２期経営改善指針の策定

事業団の効率的かつ自立的な経営と利用者への安定した福祉サービスの提供を目指し、平成30年３月に策定した「経営改善指針」に基づき、令和２年度までの３年間、収入の確保、支出の見直し、市有施設の在り方の検討、新規グループホームの開設等の経営改善に取り組み、令和３年度にその取り組みの評価・検証、今後の課題の把握を行い、理事会等にその実績を報告した。

今後の課題を踏まえ、事業団では令和４年３月に今後の方針として新たに「経営基本方針」を定めるとともに、経営の健全化の実現に向け「第２期経営改善指針」を策定した。

⑾ **そ の 他**

① 新型コロナウイルスへの対応

ア 新型コロナウイルスの感染防止を図るため、高齢者の入所施設では入所者・職員共に年度内に３回目のワクチン接種を完了するとともに、それ以外の施設ではできる限り早期にワクチン接種を完了できるよう勧奨を行った。引き続き各施設において基本的な感染防止対策を徹底し、利用者及び職員の感染防止に努めた。

イ 山形県の「障害福祉サービス、介護サービス事業所・施設における感染防止対策支援事業」に基づき、衛生用品等の購入に係る費用の一部について補助を受け、マスク、消毒液、プラスチック手袋等を購入し、継続して感染防止対策を実施した。（障害福祉サービス事業所：28,000円、介護サービス事業所：180,000円）

② 菅沢荘の短期入所生活介護ベッドの特別養護老人ホームへの転換について

令和３年７月に山形市の第８期介護保険事業計画に基づく短期入所生活介護（ショートステイ）のベッドを特別養護老人ホームに転換する整備事業者の募集（整備予定数30床）があり、菅沢荘ショートステイのベッド２床を特別養護老人ホームに転換するため、山形市に応募した結果、整備事業者に決定し、令和４年４月から菅沢荘ショートステイのベッド２床を特別養護老人ホームに転換することとなった。

③ 情報公開制度について

公開請求なし

④ 苦情解決制度について

ア 第三者委員会の開催

新型コロナウイルスの感染拡大のため、開催を見送った。

イ 第三者委員の異動

なし

⑤ 事業団ホームページの運営について

法人及び事業所の紹介、職員採用情報の掲載などを行うとともに、事業報告・決算、役員報酬規程など情報の公表に努め、運営の透明性の確保を図った。

Ⅱ 土地・建物の状況

指定管理者として管理運営する施設の土地・建物の状況は、下記のとおりである。

名　　称	所　在	土　地	建　物
まんさくの丘	蔵王半郷	19,174.52㎡	2,757.24㎡
児童養護施設山形学園	蔵王上野	21,687.39㎡	1,702.69㎡
高齢者総合福祉施設すげさわ	すげさわの丘	30,138.08㎡	5,123.49㎡
養護老人ホームあたご荘	大字岩波	12,779.48㎡	4,177.95㎡
銅町デイサービスセンター	銅町二丁目	1,713.03㎡	813.63㎡

Ⅲ　まんさくの丘

こまくさ学園、恵光園及び蔵王通勤寮の３施設を中心に、それぞれの事業の特性を活かしながら、総合福祉施設として社会的な役割を果せるよう、常に連携を図りながら事業の運営を行った。

⑴　施設全体としての取り組み

①　各施設との連携の推進

- まんさくの丘調整会議を毎月２回開催し、それぞれの施設や事業との連携と調整を図り、効果的かつ効率的な運営に努めた。
- 職員による各種委員会を組織し、それぞれの活動を通して、利用者への福祉サービスの向上と施設運営の改善と活性化を図った。（研修委員会、給食委員会、地域福祉委員会、防災委員会、環境整備委員会、倫理委員会、衛生委員会　等）
- 「まんさくの丘まつり」はコロナ禍のため、昨年度と同様に来賓や地域の方を招待せず、利用者と職員のみでの開催とした。後日、「まんさくマーケット」として、３日間、利用者の作品等を保護者に販売する機会を設けた。

②　安全管理に関する取り組み

- 火災や自然災害に備えて、総合防災訓練を年２回、避難訓練を毎月実施した。
- 施設内外の事故防止を図るため、安全点検を行い必要に応じて対策を講じた。
- 新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症を予防するため、施設全体で連携しながら徹底した取り組みを行った。
- 衛生委員会を毎月開催し、職場の安全衛生の推進を図った。

③　地域社会との交流

コロナ禍により「蔵王地区まつり」や「地域福祉懇談会」等が中止となり、地域社会との交流は大きく制限されたが、「まんさくの丘まつり」は規模を縮小した上で開催した。

④　「グループホームこもれび」の運営

令和３年１月８日に開所した日中サービス支援型の「グループホームこもれび」（入居定員10名、短期入所２床）については、引き続き安定した施設の運営に努めた。

１　児童発達支援センター　こまくさ学園

幼児期に必要な基本的なソーシャルスキルを一人ひとりが可能な限り獲得できるよう支援するとともに、家庭と連携しながら新型コロナウイルス等の対策を徹底し、感染症の予防に努めた。学園の行事や主催の研修は、内容の変更、参加者数の縮小など対策を講じた上で可能な限り実施した。

利用状況については、令和３年３月に13名の利用児が卒園し、４月には８名の児童が入園したが、年度当初は定員に達しない25名からのスタートとなった。令和４年１月に在籍児数が定員の30名に達したものの、新型コロナウイルスの感染拡大が影響して利用を控える家庭もあったことから、令和３年度の平均稼働率は75.2％で昨年度の稼働率81.1％を下回った。

また、地域療育の拠点としてその役割を果たすため、相談支援の充実を図りながら、保育所や山形市保健所等への支援を実施し、地域療育の向上に努めた。

① 利用状況

事業所名	こまくさ学園													
事業種別	福祉型児童発達支援センター										利用定員		30名	
項　　目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
開園日数	23	21	24	23	23	22	24	22	22	21	20	24	269日	－
延利用児数（人）	438	419	524	465	410	494	585	560	558	536	503	573	6,065人	505.4人
1日平均利用（人）	19.0	20.0	21.8	20.2	17.8	22.5	24.4	25.5	25.4	25.5	25.2	23.9	－	22.6人
稼働率（%）	63.5	66.5	72.8	67.4	59.4	74.8	81.3	84.8	84.5	85.1	83.8	79.6	－	75.2%
前年度の延利用児数	478	465	573	573	477	528	641	551	574	563	524	597	6,544人	545.3人
前年度の稼働率	69.3	73.8	79.6	83.0	69.1	80.0	85.5	87.5	87.0	89.4	87.3	82.9	－	81.1%

② 年齢構成　（令和４年３月31日現在）

在籍者	0～2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	平均年齢
30人	0人	3人	11人	9人	7人	4.7歳

③ 障がい程度状況　（令和４年３月31日現在）

在籍者	最重度	重　度	中　度	軽　度
30人	0人	10人	11人	9人

④ 通園バスの運行状況　（令和４年３月31日現在）

区　　分	定　　員	利 用 者	乗降地点	走行キロ数（1日平均は平均運行距離）	
				年　間	1日平均
2号車	21人補8人	13人	6ケ所	15,442km	64.8km

⑤ 療育内容

ア 療育全般

遊びや運動を通して、信頼関係を築き、子どもの心の動きを理解するよう努め、気持ちを尊重しながら、社会性や言語の獲得、基礎体力づくり、基本的な対人関係の確立など幼児期の発達に必要な療育を行った。

イ 生活習慣の自立

衣服の着脱・食事・排泄など生活習慣の自立に向けた療育を行った。

⑥ 健康衛生管理

毎月身体測定（身長・体重）を実施するとともに、専門医による各科健診（内科、眼科、耳鼻科、歯科）を年２回実施し、児童の健康管理に努めた。また、歯科衛生士による歯磨き指導やフッ素塗布を実施した。

毎日の感染予防対策として、検温、うがい、手洗い、手指消毒、マスクの着用、換気、室内の消毒、加湿器や空間除菌脱臭機の設置等を行った。

⑦ 交流保育

近隣の幼稚園との交流保育は、新型コロナウイルスの感染防止のため中止とした。

⑧ クラス別活動

毎月の活動計画に基づき、クラス毎に小集団での課題活動を行った。

⑨ 行　　事

季節に応じた催しにより自然や季節を感じ、様々な社会体験により適応力や協調性を養うため、次の行事を実施した。

月	行　　事　　内　　容
４月	入園式、お花見
５月	社会見学（園外活動）、乗馬体験、ドッグセラピー
６月	プール開き
７月	合宿、七夕、バスハイク
８月	夏まつり
９月	遠足、まんさくの丘まつり
10月	親子レクリエーション、乗馬体験、ドッグセラピー、まんさくマーケット
11月	交通安全教室
12月	クリスマス会
１月	だんご木刺し
２月	節分あそび
３月	おひなまつり、卒園式

⑩　給　　食

給食委員会を毎月実施し、献立内容と食事摂取状況などを把握するとともに、年間計画に基づき季節感や変化のある給食の実施に努めた。

⑪　保護者支援

保護者と関わる中で悩みや問題を少しでも解決できるよう、日々の療育相談、連絡帳の活用のほか、以下の支援を行った。

- 家庭訪問（13件）
- 個人面談（各保護者年３回）
- 研修会（年７回）
- 自由参観（年２回）
- 療育参観（各クラス年２回）
- 療育説明会（年１回）
- 保護者茶話会（１回）

※コロナ禍のため、保護者懇親会を中止した。

⑫　就　　学

保護者の意向や子どもの発達段階に応じて、教育委員会、小学校、特別支援学校などの関係機関と密接に連絡を取りながら適切な指導・支援を行った。

区分	名　　称	人数	名　　称	人数
就学	村山特別支援学校	２名	山形市立第七小学校	１名
	山形市立桜田小学校	２名	山形市立南沼原小学校	１名
	山形市立千歳小学校	１名	合　　計	７名

⑬　卒園児支援

学校からの要請を受け、学校に出向き情報交換を行った。

⑭　災害防止

非常災害に備え、避難訓練10回、総合防災訓練２回、職員の救命救急訓練を実施した。また、園内活動や園外行事等は、無理のない内容・日程に配慮し計画を立て実施した。

⑮　苦情解決

- 相談、要望などはあったが、苦情として受け付けたものはなかった。
- 保護者にアンケート調査を実施し、利用満足度において「非常に良い」「良い」が全体

の98.2%という結果であった。また、国のガイドラインに従い、引き続き保護者の「児童発達支援評価表」と事業所の「自己評価結果」をホームページに掲載した。

⑯　職員研修

ア　職場内研修

- 日時　令和３年４月１日（木）
  内容　「こまくさ学園の療育指針について」（内部研修）
  講師　児童発達支援管理責任者　伊藤　亮
- 日時　令和３年４月２日（金）
  内容　「こまくさ学園の療育内容について」（内部研修）
  講師　園長　髙橋　有紀
- 日時　令和３年７月７日（水）（乳幼児救急法講習）
  ７月14日（水）（成人救急法講習）
  内容　「救命救急の講習」
  講師　日本赤十字社山形県支部　指導員
- 日時　令和４年３月11日（金）
  内容　障がい児・者の権利擁護と虐待防止について
  「障がいのある人の権利擁護・虐待防止について」
  講師　前山形県知的障害者福祉協会倫理委員長　横尾　昌人　氏
- その他　　３件

イ　職場外研修（※はオンライン研修）

• 山形県サービス管理責任者研修（更新研修）　※	８月４日	２名
• 全国知的障害者関係施設長等会議・研修　※	10月６日～７日	１名
• 権利擁護推進委員等研修　※	10月８日	２名
• こどものこころの健康を考えるシンポジュウム　※	10月12日、22日	２名
• 山形県作業療法士会　発達領域研修会　※	10月17日	１名
• 東北フォーラム2021in やまがた　実践発表	11月１日	１名
• 強度行動障害支援者養成研修（実践研修）	12月８日	１名
• その他　　13件		14名

⑰　実習生等の受け入れ

- 保育実習　７名　　• 在宅看護論実習　12名　　• 介護等体験実習　３名
- 発達障がい作業療法実習　17名

⑱　研修事業

毎年、保育所・幼稚園・放課後児童クラブ・療育機関・行政機関等の関係者らを対象に公開講座を開催していたが、コロナ禍のため規模を縮小し、所属職員向けの講座として開催した。

第１回　令和３年12月３日（金）　15：15～17：00 テーマ：「自己肯定感について」 講　師：公認心理師・臨床心理士　加藤　玲子　氏 受講者：13名
第２回　令和４年１月28日（金）　15：15～17：00 テーマ：「トラウマインフォームドケアについて」 講　師：公認心理師・臨床心理士　加藤　玲子　氏 受講者：10名
第３回　令和４年３月30日（水）　15：15～17：00 テーマ：支援力向上研修「子どもの行動と心情を理解する」 講　師：こまくさ学園　業務調整主査　伊藤　亮 受講者：７名

⑲　相談支援

ア　巡回相談（山形市保健所）

- 幼児発達相談　年15回

イ　外来相談

臨床心理士による行動観察、助言、相談を行った。

- 年26回　延べ47件

ウ　相談室

- 年12回　延べ22件

２　児童発達支援事業　ひよこ教室

発達に心配のある幼児を持つ保護者のニーズに応えるため、親子での通園による小集団療育のほか、単独での療育コースを定期的に実施し、発達段階に応じたきめ細やかな療育を行った。

延利用児数は1,259人で目標値の1,100人を上回った。なお、利用にあたっては、引き続き新型コロナウイルス等の感染対策を徹底し、感染防止に努めた。

①　利用状況

事業所名	ひよこ教室													
事業種別	児童発達支援										利用定員		10名／日	
項　　目	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	計	月平均
開園日数	14	20	23	21	19	21	23	22	20	17	20	18	238日	－
延利用児数（人）	54	84	101	97	96	103	142	139	112	102	113	116	1,259人	104.9人
１日平均利用（人）	3.9	4.2	4.4	4.6	5.1	4.9	6.2	6.3	5.6	6.0	5.7	6.4	－	5.3人
稼働率（%）	38.6	42.0	43.9	46.2	50.5	49.0	61.7	63.2	56.0	60.0	56.5	64.4	－	52.9%
前年度の延利用児数	40	78	90	89	83	89	78	77	91	103	113	128	1,059人	88.3人
前年度の稼働率	28.6	41.1	37.5	40.5	43.7	42.4	32.5	36.7	45.5	51.5	56.5	64.0	－	43.4%

②　療育内容

- 親子遊び、個別療育及び小集団療育を通じて、乳幼児の発達段階に必要な設定遊びや行事を実施した。

- 〈設定療育〉ひよこ体操、ハイハイ運動、はしごくぐり、散歩、ひも通し、シール貼り、紙遊び、洗濯ばさみ遊び等
- 臨床心理士による外来相談を実施した。
- 保護者への相談支援を必要に応じて随時実施した。

３　放課後等デイサービス　風の子

小学生を対象に放課後や夏休み等の長期休暇中に療育や余暇の機会を提供し、心身両面のバランスのとれた発達を援助した。利用にあたっては、引き続き家庭や学校等と連携しながら新型コロナウイルス等の感染対策を徹底し、感染防止に努めた。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響のため、自宅待機となり一定期間利用できない児童が複数見られたが、延利用児数は2,433人で目標値の2,400人を上回った。

①　利用状況

事業所名	風の子													
事業種別	放課後等デイサービス										利用定員		10名／日	
項　　目	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	計	月平均
開園日数	20	18	22	20	18	20	21	20	19	18	18	19	233日	－
延利用児数（人）	192	164	248	218	188	221	220	214	200	187	182	199	2,433人	202.8人
１日平均利用（人）	9.6	9.1	11.3	10.9	10.4	11.1	10.5	10.7	10.5	10.4	10.1	10.5	－	10.4人
稼働率（%）	96.0	91.1	112.7	109.0	104.4	110.5	104.8	107.0	105.3	103.9	101.1	104.7	－	104.4%
前年度の延利用児数	202	204	252	213	219	235	245	203	208	203	189	226	2,599人	216.6人
前年度の稼働率	101.0	113.3	114.5	106.5	121.7	117.5	111.4	106.8	109.5	106.8	105.0	113.0	－	110.6%

②　療育内容

- 放課後や長期休暇中の療育の場として、幼児期に積み残した社会性、コミュニケーション及び自主性の成長を支援した。
- 〈設定療育〉全身運動(サーキット･バランスボール等)、日常生活訓練、指先運動､クッキング、散歩、宿題等
- 保護者への相談支援を必要に応じて随時実施した。
- 随時学校や関係療育機関との連携を図った。

４　保育所等発達相談事業

市内保育所等52カ所（民間立32カ所、認定こども園20カ所）の保育士を対象に巡回相談を実施し、発達に心配がある児童の支援方法の指導・助言を行い、保育所における発達支援技術の向上及び支援体制の充実に努めた。

新型コロナウイルスの感染状況をみて、日程の再調整をする等、安全に配慮して巡回相談等を実施した。

① 相談事業

事業所名		保育所等発達相談事業													
事業種別		山形市委託事業										利用定員		－名	
項　　目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
巡回相談	延巡回数	0	1	12	10	7	10	9	7	10	1	2	11	80回	6.7回
	延対応件数	0	3	47	42	21	33	31	22	36	4	3	30	272件	22.7件
	前年度件数	0	0	34	55	31	14	37	26	26	26	10	0	259件	21.6件
相談後のフォロー件数	相談室	1	2	2	2	3	2	2	2	2	2	1	1	22件	1.8件
	外来相談	0	0	2	4	4	7	7	7	3	2	6	5	47件	3.9件
	計	1	2	4	6	7	9	9	9	5	4	7	6	69件	5.8件
	前年度件数	1	1	2	6	7	8	6	4	9	8	8	6	66件	5.5件

② 研修事業

ア 令和３年度事例検討会

区　　分	箇所数	延巡回数	延対応件数
民間立保育所	1	1	3

イ 保育所発達相談事業連絡会

各保育所の代表者を対象とする発達相談事業の説明会は、コロナ禍のため中止とした。

③ 山形市行政分科会

コロナ禍のため中止とした。

５ 生活介護事業 恵光園

利用者の希望や個性を尊重し、日々の活動を通して安心して主体的に活動に取り組める環境づくりと支援サービスの充実に努めた。家庭等との連携により利用者の心身の安定を図りながら支援にあたった。

令和３年度は１名の新規利用者を迎え、平均稼働率は83.7％で目標の82％以上を確保することができたが、令和２年度の稼働率86.5％からはやや減少した。

令和３年度も新型コロナウイルスの感染防止に努め、行事に関しては飲食を伴うもの、遠方に外出するものは中止又は規模を縮小して開催した。

① 利用状況

事業所名	恵光園													
事業種別	障害福祉サービス（生活介護）										利用定員		40名	
項　　目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
開園日数	23	21	24	23	23	22	24	22	22	21	20	24	269日	－
延利用者数（人）	764	711	825	775	715	747	798	752	715	695	676	834	9,007人	750.6人
１日平均利用（人）	33.2	33.9	34.4	33.7	31.1	34.0	33.3	34.2	32.5	33.1	33.8	34.8	－	33.5人
稼働率（％）	83.0	84.6	85.9	84.2	77.7	84.9	83.1	85.5	81.3	82.7	84.5	86.9	－	83.7%
前年度の延利用者数	782	710	865	818	746	794	887	726	733	715	685	850	9,311人	775.9人
前年度の稼働率	85.0	84.5	90.1	88.9	81.1	90.2	88.7	86.4	83.3	85.1	85.6	88.5	－	86.5%

② 年齢別構成　（令和４年３月31日現在）

在籍者	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	平均年齢
43人	１人	８人	５人	13人	７人	７人	２人	45.11歳

③　障がい支援区分　（令和４年３月31日現在）

在籍者	区分１	区分２	区分３	区分４	区分５	区分６
43人	０人	０人	３人	16人	10人	14人

④　通園バス運行状況　（令和４年３月31日現在）

区　　分	定　　員	利 用 者	乗降地点	走行キロ数（１日平均は平均運行距離）	
				年　　間	１日平均
１号車	33人補９人	19人	11カ所	16,977km	63km
３号車	８人	８人	８カ所	17,725km	66km
４号車	６人	５人	４カ所	10,975km	41km

⑤　日常活動

日々の生活で必要となる基本的な生活能力及び体力と基本的な生活習慣を養うため、個別支援計画等に基づき、継続的な活動、支援を行った。

⑥　班別活動

利用者の希望や適性等を尊重し、通常は作業班と生活班の２つのグループに分かれてそれぞれ以下の活動に取り組んだ。

	項目	主　な　活　動　内　容	
作業班	作業活動（箱づくり）	作業トレーニングとして菓子箱（紙箱）折りの作業、菓子袋のシール貼り等を市内の業者から受注して行った。今年度もコロナ禍の影響により受注量が減少した。	
	創作活動	陶芸	利用者の適性に合わせ、ひも作り、型作りなど様々な技法を用いて作品の制作に携われるように配慮した。釉薬の塗布、ガス窯で焼成し、個性的な作品作りを行った。完成した作品は施設の祭りで展示販売を行ったが、コロナ禍のため展示販売の機会が減少した。
		手工芸	・利用者の能力に合わせて取り組める手工芸を取り入れて行った。 ・ビーズを糸に通して、指輪、ブレスレッド、ネックレス等を制作したが、展示販売の機会が少なかった。
		図画工作	季節や行事に合わせて絵描きや紙工作等を行い、自由に創作する楽しさ、達成感を味わった。
	生活学習レクリエーション	クッキング	季節感のあるお菓子や飲み物等を作った。また、誕生会で食べるお菓子を生活班と一緒に手づくりし、誕生月ごとに利用者をお祝いした。
		月・季節行事	誕生会や茶話会、季節の小行事等を実施して、変化のある生活作りに取り組んだ。
		園外活動	感染対策を講じた上で、作業班のみや生活班と混成の小グループで外出し、散策や社会体験を行った。
		園芸	園の畑にジャガイモ・トウモロコシ・トマト等を植え、獲れた野菜で収穫祭を行い、自分たちで育て、収穫する喜びを体験した。
		軽スポーツ	・散歩や踊り等楽しく体を動かせる場面を多く取り入れた。 ・地域のインディアカ愛好会の指導を受け、スポーツの楽しさを体験しながら交流を図った。

<table>
<tr><td rowspan="9">生活班</td><td>個別活動</td><td colspan="2">• 利用者一人ひとりの障がいの状態、嗜好や適性に合わせ、楽しく取り組める軽作業や指先を使うビーズ通しやパズル作り等の活動を行った。
• 施設周辺の散歩等により、体力作りや健康増進に努めた。</td></tr>
<tr><td>リハビリ体　　操</td><td colspan="2">音楽、レクリエーション、運動等を組み合わせて、楽しみながら体を動かし、身体機能の活性化を図った。</td></tr>
<tr><td>機能訓練</td><td colspan="2">身体機能の維持・向上を図るため、個人ごとに必要な訓練を行った。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">創作活動</td><td>陶芸</td><td>利用者の適性に合わせ、型作り等の技法を用いて作品を作り、完成した作品は施設の祭りで販売し、販売を体験した。</td></tr>
<tr><td>手工芸</td><td>• ビーズ手芸に取り組み、ネックレスやブレスレット等の作品を作った。
• パーラービーズでコースター等の作品を作り、施設の祭りで展示販売を行ったが、コロナ禍のため展示販売の機会が少なかった。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">生活学習レクリエーション</td><td>月・季節行事</td><td>• 誕生会や茶話会、季節の小行事を実施し、季節感のある生活作りに取り組んだ。
• 園の畑にジャガイモ・トウモロコシ・サトイモ等を植え、植物の生育や収穫の喜びを体験するとともに、採れた野菜で収穫祭を行った。</td></tr>
<tr><td>園外活動</td><td>感染予防をしながら、生活班のみや作業班と混成の小グループで外出し、散策や社会体験を行った。</td></tr>
<tr><td>クッキング</td><td>誕生会で食べるお菓子を作業一緒に手づくりし、誕生月ごとに利用者をお祝いした。また、季節に応じた菓子を生活班単独でも作った。</td></tr>
<tr><td>軽スポーツ</td><td>希望者は毎月１回地域のインディアカ愛好会の指導を受け、スポーツの楽しさを体験しながら交流を図った。</td></tr>
<tr><td>レクリエーション</td><td>室内でできる簡単なボウリングやサッカー等のゲームを行い、楽しく体を動かした。</td></tr>
</table>

⑦　全体活動

収穫祭や年末慰労会等の園全体での行事を行い、親睦と相互理解を深めた。

⑧　園外活動

小グループで施設外に出掛け、社会経験を積んだ。（10回）

⑨　健康衛生管理

- 嘱託医との連携を図りながら、利用者の健康管理に努めるとともに、専門医による各科検診（内科、眼科、耳鼻科、歯科）を年２回実施した。
- 利用者全員を対象に、施設内で山形市の総合健診（特定健診・がん検診等）と同様の集団健診を実施した。
- 看護職員及び担当職員を中心に、丁寧な健康観察を行い、体調不良や感染症等の把握に努め、必要に応じて家庭と連携し、予防と早期の適切な対応に努めた。
- 毎月１回体重、血圧測定を行い、利用者の健康状態の把握に努めた。

⑩　給食の状況

- 利用者に好まれる内容と栄養のバランスの両立に努め、季節感のある献立や利用者が選択できる希望献立等により、豊かな食事の提供に努めた。また、利用者の咀嚼、嚥下の

状態に合わせた形態（普通食、粗みじん、刻み、ペースト等）で提供した。

- 給食委員会を毎月１回実施し、献立内容と利用者の食事摂取状況等を確認することで提供内容の充実を図った。
- 毎日の食事の中で、偏食及び糖尿病等の成人病予防を図るため個別支援を行い、必要に応じて家庭との連携を図り、効果を高める食事支援に取り組んだ。

⑪　時間外預かり支援（レスパイト）サービスの実施

利用者及びその家庭に対する支援として、通常の営業時間を延長して支援を行った。

○午前の預かり時間　　（８：00～８：30）　延べ利用者数　　０人
○平日・午後の預かり時間（17：15～18：30）　延べ利用者数　500人
○土曜・午後の預かり時間（12：30～18：30）　延べ利用者数　105人

⑫　防災及び事故防止対策

- 総合防災訓練（年２回）と火災や地震を想定した避難訓練（月１回）を実施して災害時に備えた。訓練は無理のない内容・日程で安全性に配慮し計画を立て実施した。
- 登降園時の安全に配慮し、家庭と連携を密にしながら事故の防止に努めた。

⑬　苦情解決

- 利用者支援に細心の注意を払い、家族と丁寧に連絡を取った結果、特に苦情はなかった。
- 利用者満足度アンケートを年２回実施し、『とても満足している』『まあ満足している』との回答が全体の88％を占め、概ね良好な評価が得られた。

⑭　職員の研修

職員の資質向上を図るため、以下の研修に参加した。

ア　職場内研修

• 救命救急法研修（子ども向け）	７月７日	３名
• 救命救急法研修（成人向け）	７月14日	５名
• 吐瀉、汚物処理研修	１月28日	９名
• 権利擁護研修会	３月11日	７名

イ　職場外研修（※はオンライン研修）

• てんかん基礎講座　※	７月26日～30日	６名
• サービス管理責任者更新研修	８月４日	１名
• 強度行動障がい支援者養成研修基礎研修	８月５日	１名
• 山形県知的障害者福祉協会支援力向上研修	８月25日	１名
• 山形県知的障害者福祉協会権利擁護推委員研修　※	10月８日	１名
• 第１回国立のぞみの園セミナー　※	１月11日	６名
• 山形県知的障害者福祉協会権利擁護セミナー　※	３月９日	２名
• その他　６件		

⑮　地域社会との交流

- 村山総合支庁での収穫物、作品の展示販売（年２回）
- インディアカを通して地元住民との交流（年５回）

⑯　保護者との連携

- 毎日の連絡帳により情報交換と相互理解を深め、必要に応じて電話や家庭訪問等により連携を密にし、施設と家庭が一体的かつ継続的に支援ができるように努めた。
- まんさく丘内での展示販売（10月３回）

⑰　実習生の受け入れ

- 介護実習　２名
- 保育実習生　４名
- 就業・現場体験（特別支援学校生徒）　３名
- 施設実習（看護学生）　８名
- 介護等体験実習　２名

６　日中短期入所事業所　恵光園

在宅で生活する障がい者が、家族等からの見守りを受けることができない場合に、日中の一定時間にお預かりすることにより、当事者及び家族の負担軽減を図った。

年間延べ利用者数は106人で、目標の100名を達成できた。今後の課題として、利用者のニーズと恵光園本体の運営のバランスを考えた事業形態を検討する必要がある。

①　利用状況

事業所名		日中短期入所事業所恵光園													
事業種別		地域生活支援事業（日中一時支援事業）										利用定員		５名／日	
項　目		４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	計	月平均
延利用者数	４時間未満	1	2	6	5	4	4	6	8	3	4	2	6	51人	4.3人
	４～８時間	4	4	3	1	5	4	4	3	5	3	2	8	46人	3.8人
	８時間以上	1	1	1	1	1	0	1	1	0	1	1	0	9人	0.8人
	計	6	7	10	7	10	8	11	12	8	8	5	14	106人	8.8人
	前　年　度	6	0	10	9	14	16	11	11	3	4	2	2	88人	7.3人

７　指定共同生活援助事業所　こもれび

令和３年１月に「グループホームこもれび」が開所して間もないことから、入居者が安心して安定した日常生活を営むことができるよう個別支援計画に基づき、入居者の心身の状況等に応じて、食事、入浴、排せつの介助や相談など必要な支援を行った。

令和３年４月に１名が入居し定員の10名に達したが、その後２名の退居と１名の入居があり、年度末時点の入居者は９名であった。なお、令和３年度の稼働率は70.2％であった。

①　利用状況

事業所名	共同生活援助事業所こもれび													
事業種別	障害福祉サービス（日中サービス支援型共同生活援助）										利用定員		10名／日	
項　目	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	計	月平均
営業日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365日	－
延利用者数（人）	222	227	220	221	211	210	224	217	212	186	188	224	2,562人	213.5人
１日平均利用（人）	7.4	7.3	7.3	7.1	6.8	7.0	7.2	7.2	6.8	6.0	6.7	7.2	－	7.0人
稼働率（％）	74.0	73.2	73.3	71.3	68.1	70.0	72.3	72.3	68.4	60.0	67.1	72.3	－	70.2%
前年度の延利用者数	－	－	－	－	－	－	－	－	－	109	152	241	502人	167.3人
前年度の稼働率	－	－	－	－	－	－	－	－	－	45.4	54.3	77.7	－	60.5%

② 入居の状況　（令和４年３月31日現在）

入居定員	男	女	入居者数
10人	４人	５人	９人

③ 年齢構成　（令和４年３月31日現在）

年　齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計	平均年齢
人　数	0人	0人	1人	4人	4人	0人	0人	9人	49.1歳

④ 入居者の日中活動先　（令和４年３月31日現在）

活動場所	生活介護（恵光園）	生活介護（恵光園以外）	就労継続支援B型	地域生活支援事業（生活訓練）	無し	合　計
人　　数	７人	０人	１人	０人	１人	９人

⑤ 支援体制の確立

グループホームの開所１年目にあたり、サービス管理責任者、生活支援員及び世話人等が連携して入居者に適切な支援ができるよう安定した支援体制の確立に努めた。

⑥ 入居者への支援

入居者の心身の状態や障がいの状況に応じた個別支援計画を作成し、職員が情報を共有しながら必要な支援を行った。

⑦ 食事の提供

入居者の食事は、まんさくの丘の厨房で調理し、グループホームに運搬して提供する体制であるため、まんさくの丘栄養士と世話人等が連携しながら安定した食事の提供体制の構築に努めた。

⑧ 健康及び衛生管理

- 毎日の検温や服薬の管理を実施し、入居者の健康管理に努めた。また、必要に応じて医療機関を受診し、医師等の指示に従い必要な支援を行った。
- 市内の新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、手洗い、テーブル・手すり等の消毒など感染対策を徹底し、感染防止に努めた。

⑨ 関係機関との連携

日中活動の場となる他事業所や相談支援事業所等との連絡体制を確立し、必要な情報交換を行い、入居者の生活や日中活動の安定を図った。

⑩ 家庭との連携

必要に応じて電話や自宅に帰省する際に必要な情報の共有や意見の交換等を行い、家庭と連携しながら入居者への支援の向上に努めた。

⑪ 防災及び事故防止対策

総合訓練（２回）及び夜間を想定した避難訓練（１回）を実施するとともに、消火器・スプリンクラー等の防災設備の確認を行い、非常時の体制の確立に努めた。

⑫ 苦情解決

様々なご意見・ご要望をいただき、解決できるよう努めた。

8　指定短期入所事業所　こもれび

「グループホームこもれび」に併設した短期入所２床（うち１床は、山形市障がい者地域生活支援拠点等整備事業業務の受託による緊急入所用）については、グループホーム入居者の生活の安定を優先し、５月から利用者の受け入れを開始した。

短期入所は、受け入れ開始後、順調に利用者数が増加し、下半期の月平均の延利用者は25.5人となった。緊急入所用の１床については、山形市に居住する知的障がい者で市に登録した方が利用の対象者であり、緊急の利用及び体験的利用に供するものであるが、６月に初めての利用があり、年間の延利用者数は35人であった。

①　利用状況

事業所名		短期入所事業所こもれび													
事業種別		障害福祉サービス（短期入所）										利用定員		短期入所１床 緊急入所１床	
項　　目		４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	計	月平均
短期入所	延利用者数(人)	0	3	11	18	17	26	27	26	24	22	22	32	228人	19.0人
	前年度実績	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0	0	0	0人	0.0人
緊急入所	延利用者数(人)	0	0	5	10	0	0	0	2	0	8	4	6	35人	2.9人
	前年度実績	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0	0	0	0人	0.0人

9　宿泊型自立訓練事業　蔵王通勤寮

利用者の就労・生活の安定と地域生活への移行を推進するため、就労事業所、関係機関等と連携を図りながら、個別支援計画に基づき支援を行った。

コロナ禍により引き続き社会見学旅行など行事の開催を中止にせざるを得なかった。

延利用者数は、前年度比231名減の5,256名で、稼働率は前年比3.2％減の72.0％で目標値の80.0％を下回った。しかしながら、事業本来の目的である「利用者の地域生活移行」を進めた結果であった。

①　利用状況

事業所名	蔵王通勤寮													
事業種別	障害福祉サービス（宿泊型自立訓練）										利用定員		20名	
項　　目	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	計	月平均
営業日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365日	－
延利用者数（人）	480	495	427	434	434	416	434	420	443	447	392	434	5,256人	438.0人
１日平均利用（人）	16.0	16.0	14.2	14.0	14.0	13.9	14.0	14.0	14.3	14.4	14.0	14.0	－	14.4人
稼働率（％）	80.0	79.8	71.2	70.0	70.0	69.3	70.0	70.0	71.5	72.1	70.0	70.0	－	72.0%
前年度の延利用者数	480	490	463	462	464	442	434	437	465	465	420	465	5,487人	457.3人
前年度の稼働率	80.0	79.0	77.2	74.5	74.8	73.7	70.0	72.8	75.0	75.0	75.0	75.0	－	75.2%

②　入退所の状況　　（令和４年３月31日現在）

令和２年度末 在籍者	年度中の増減			令和３年度末 在籍者
	入所	退所	増減	
15人	２人	４人	△２人	13人(男９人女４人)

③　年齢構成　（令和４年３月31日現在）

年　齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計	平均年齢
人　数	１人	５人	１人	０人	３人	３人	13人	40.0歳

④　利用者の日中活動区分　（令和４年３月31日現在）

就労形態	一般就労	就労継続支援A型	就労継続支援B型	就労移行支援	生活介護事業所	合　計
人　数	６人	１人	５人	０人	１人	13人

⑤　自立能力向上への支援

- 基本的生活習慣、身辺処理能力及び金銭管理能力の向上を図る支援を行った。
- 自治会活動の充実を図るための支援（年間計画、生活用品購入、当番活動等）を行った。
- 相談支援事業所との契約の支援を行った。
- 利用者４名の地域生活への移行を支援した。（単身生活１名、自宅復帰１名、グループホーム１名、その他１名）

⑥　就業指導及び職場定着への支援

- 就労事業所及び関係機関との連携を強化し、職場定着を目指した訪問等を行った。
- 障害者職業訓練センターと連携し、職場定着に向けた支援を行った。

⑦　食生活への支援

- 給食委員会を毎月１回実施し、献立内容と利用者の食事摂取状況を把握するとともに、年間計画に基づき季節感のある給食の提供を行った。
- 利用者の嗜好に関する調査を毎月行い、希望を集約して実際の献立に反映させた。
- 定期的に栄養士が食事の実態を確認し、必要に応じて食事指導及び助言を行った。
- 食生活及び調理に関する知識と技能を高める支援を行った。

⑧　余暇活動への支援

例年どおりに行事を開催できなかったが、感染対策を講じた上で誕生会（毎月）、外食（不定期）、余暇活動（11月）、忘年会（12月）を開催し、できる限り生活の質の向上を図った。

⑨　健康及び衛生管理

- 健康診断等の実施状況

検診内容	健康診断（一般）	健康診断（成人病）	子宮・乳がん検診
受診者数	９人	６人	１人

- 健康診断の結果、精密検査や治療を要するケースには迅速に対処した。異常が認められた利用者には再検査を行った。
- 感染症や食中毒の予防のため、検便を実施した。（職員：毎月、利用者：年６回）
- 新型コロナウイルス等の感染防止を図るため、手洗い・手指消毒等を徹底した。
- 病気等の予防、通院及び治療など自己管理能力の向上を図る支援を行った。
- インフルエンザ等の有症状者が発生した場合は隔離等を行った。また、就労事業所等に連絡して対応を協議した。
- 新型コロナウイルスの感染防止のため、利用者に外出・外泊の自粛を求めた。
- 新型コロナウイルスのワクチン接種に関する説明、実施の支援を行った。

• 通院・入院の状況

受診内容による分類	内　科	精神科	てんかん	脳神経外　科	歯　科	形成外科	皮膚科	眼　科	耳鼻科	整形外科又は接骨院	婦人科	泌尿器科
通院治療 （うち実人数）	66 (10)	57 (7)	8 (2)	3 (1)	7 (1)	0 (0)	26 (6)	1 (1)	14 (4)	2 (2)	1 (1)	0 (0)
入院治療 （うち実人数）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

⑩　災害防止対策

• 総合防災訓練（２回）及び防災研修（１回）を実施した。
• まんさくの丘全体で実施する避難訓練に参加した。（月１回）
• 発電機の操作及び作動確認を行った。（２回）

⑪　関係機関・保護者との連携

• 福祉事務所とのケース検討会
• 就業・生活支援センター、相談支援事業所及び就労事業所との連携
• コロナ禍のため、保護者会及び三恩会総会の開催を見送った。

⑫　苦情解決

• 利用者にアンケート調査を実施した。（10月、３月）
• 今年度も苦情はなかった。

⑬　職員の研修

ア　職場内研修

• 救命救急研修（７月／１名参加）幼児対象
• 救命救急研修（７月／１名参加）成人対象
• 権利擁護講座（３月／２名参加）

イ　職場外研修（※はオンライン研修）

• 東北地区知的障害者福祉協会施設長会議　※（６月／２名参加）
• 東北地区知的障害者福祉協会研修「風水害時のリスクマネジメント」 ※（６月／２名参加）
• 東北地区知的障害者福祉協会東北フォーラム（11月／１名参加）
• 山形県知的障害者福祉協会研修会（11月／１名参加）
• 山形県知的障害者福祉協会地域支援部会研修会及び情報交換会　※（２月／１名参加）
• その他（３件／４名参加）

10　指定共同生活援助事業所　蔵王

個別支援計画に基づき、金銭管理、居室の清掃等の生活環境の改善、就労事業所と連携した職場定着を図るため支援を行った。

入居者２名の退居と１名の入居があった。平均稼働率は98.3％で目標の100％に近い数値を維持することができた。欠員の１名分については、入居者の選定も含め調整･協議を行った。

一部入居者の高齢化で健康に問題を抱えるケースが増え、保護者や世話人と連携しながら

個別支援を行うとともに、退居を見据えたその後の生活場所等を関係機関と協議した。

① 利用状況

事業所名	共同生活援助事業所蔵王（グループホーム６箇所：定員各４名）													
事業種別	障害福祉サービス（外部サービス利用型共同生活援助）										利用定員		24名	
項　目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
営業日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365日	－
延利用者数（人）	702	713	713	744	744	720	744	720	740	716	644	713	8,613人	717.8人
１日平均利用（人）	23.4	23.0	23.8	24.0	24.0	24.0	24.0	24.0	23.9	23.1	23.0	23.0	－	23.6人
稼働率（%）	97.5	95.8	99.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.5	96.2	95.8	95.8	－	98.3%
前年度の延利用者数	720	744	720	744	744	720	744	720	744	743	672	744	8,759人	729.9人
前年度の稼働率	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	100.0	100.0	－	100.0%

② 入居の状況　（令和４年３月31日現在）

名　称	飯 田 荘	みどり荘	さくら荘	わかば荘	あすなろ荘	わかくさ	合　計
入居人数	４人	４人	４人	３人	４人	４人	23人(男12人･女11人)

③ 年齢構成　（令和４年３月31日現在）

年　　齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計	平均年齢
人　　数	０人	１人	５人	６人	３人	７人	１人	23人	49.9歳

④ 入居者の就労区分　（令和４年３月31日現在）

就労形態	一 般 就 労	就労継続支援A型	就労継続支援B型	生活介護事業所	無　　職	合　　計
人　数	14人	４人	４人	１人	０人	23人

⑤ 入居者に対する支援（延件数）

- 社会生活上の相談及び支援（345回）
- 余暇活動の支援（１回）
- 職場訪問及び就労支援（83回）
- 関係機関との連携（66回）
- 対人関係の調整（32回）
- 買物等の支援（53回）
- 問題行動への対応（11回）

⑥ 世話人に対する指導

相談及び業務指導（78回）

⑦ 健康及び衛生管理

- 健康管理に関する支援（194回）　※新型コロナウイルスのワクチン接種を含む。
- 医療機関への受診支援（92回）
- 入居者の健康診断の実施状況

検診内容	健康診断（一般）	健康診断（成人病）	子宮・乳がん検診
受診者数	５人	18人	５人

⑧ 地域生活関連

地域生活への適応に関する支援（14回）

⑨ 関係機関・保護者との連携

相談支援事業所との連携（91回）

※コロナ禍のため、保護者会、三恩会総会の開催は見送り

⑩　災害防止対策

- 蔵王通勤寮で実施した総合防災訓練に参加した。（２回／８月、２月）
- 各グループホームごとに防災設備の説明、消火訓練、避難経路の確認を行った。（２月）

⑪　苦情解決

今年度は苦情がなかった。

11　相談支援事業所　まんさく

本人及びその家族が、豊かな人生を自らの意思に基づき実現できるよう支援するため、サービス提供事業者や市町村、教育機関等の関係機関と連携しながら、日常生活や必要なサービスの利用等の相談に応じ、サービス利用計画の作成、申請等の支援を下記のとおり実施した。なお、昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響により訪問によるモニタリングや面談ができず、電話で対応する等の影響があった。

令和３年度の目標件数は、特定相談105件、特定相談継続支援135件、障害児相談370件、障害児相談継続支援200件であったが、相談支援専門員１名の欠員により目標値を下回る結果となった。

①　新規相談件数・連絡調整件数

事業所名	相談支援事業所まんさく													
事業種別	障害児相談支援、一般相談支援、特定相談支援										利用定員		－名	
項　　目	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	計	月平均
特定相談（件）	7	5	5	7	12	3	15	7	11	10	13	8	103件	8.6件
特定相談継続支援（件）	2	4	9	2	8	8	4	4	2	10	6	14	73件	6.1件
障害児相談（件）	76	23	19	31	29	27	21	33	29	29	18	21	356件	29.7件
障害児相談継続支援(件)	25	21	13	6	9	16	8	4	3	9	29	24	167件	13.9件

②　新規相談件数（形態別）

区　分	平　日	時間外	休　日	合　計
電　　話	298	0	0	298件
来　　所	76	0	0	76件
訪　　問	19	0	0	19件
そ　の　他	0	0	0	0件
合　　計	393件	0件	0件	393件

③　相 談 者

区　　分	件　数	区　　分	件　数
本人・家族等	254	行政機関	5
民生委員	0	教育委員会	6
ケアマネジャー	7	山形市からの依頼	7
サービス提供事業所	113	その他（知人等）	1
医療機関	2	合　計	395件

④　主な相談内容

内　　容	件数	内　　容	件数	内　　容	件　数
サービス利用支援	1,788	保育・教育支援	538	雇用・就労支援	112
障がい・病状理解支援	314	家族・人間関係支援	60	社会参加・余暇活動支援	16
健康・医療支援	153	家計・経済支援	51	権利擁護・成年後見関係	13
不安解消・情緒支援	456	生活に関する支援	19	虐待に関する支援	6
そ　の　他	0			合　計	3,526件

⑤　相談後の連絡調整

区　　分	件　数	区　　分	件　数
本人・家族等	1,987	医療機関	78
民生委員・近隣関係	2	行政機関	759
ケアマネジャー	74	その他	190
サービス提供事業所	1,812	合　　計	4,902件

⑥　申請手続き

項　　目	申請・処理件数	項　　目	申請・処理件数
介護給付費支給申請	109	サービス等利用計画申請(者)	92
訓練等給付費支給申請	12	障がい児支援利用計画申請(児)	355
地域生活支援事業申請	34	福祉タクシー券・給油券	46
手帳申請関係	8	その他	3
自立支援医療請求	1		
障がい児通所給付費支給申請	350	合　　計	1,010件

⑦　障がい種別

身体障がい	知的障がい	精神障がい	発達障がい	難　病	その他	合　計
31	144	17	106	1	100	399人

⑧　カファレンス等の開催件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
4	1	7	9	4	2	3	7	14	6	5	6	68件

⑨　地域との連携（※はオンライン会議）

- 山形市相談支援センター合同会議　※　　6月28日　1名
- 日本社会福祉士全国大会・社会福祉士学会　※　　7月3日～4日　1名
- 村山地域医療的ケア児支援連絡会　※　　2月8日　1名
- 村山地域精神障がい者地域移行・地域定着支援推進会議　※　　2月22日　1名

⑩　職員研修（※はオンライン研修）

- 山形県障がい者相談支援従事者研修（初任者研修）
  8月18日～19日、24日～25日、10月8日、26日～27日　1名
- 山形県強度行動障がい支援者養成研修
  （基礎研修）※　8月6日～8月27日（演習）　9月6日～7日、16日～17日　1名
- 山形県強度行動障がい支援者養成研修　10月27日～28日、11月11日～12日　1名

• 相談支援従事者指導者養成研修　※	９月15日～17日、３月２日	１名
• 児童発達支援部会研修会　※	３月２日	１名

Ⅳ　児童養護施設　山形学園

令和３年度は、児童一人ひとりが心身共に健やかに過ごし、大切にされていると実感できるように配慮しながら、将来に向けて生きがいを持ち、人生を切り拓いていく力を育むことができるよう支援にあたった。

昨年度も新型コロナウイルスの感染拡大により、必要に応じて子ども達には一時的な自宅待機の措置などが取られたが、感染防止対策を徹底し、職員と児童が協力・工夫しながら感染者が発生することなく通常のとおり日常生活を送ることができた。特に、初めて実施したユニット毎のグループ旅行については児童から好評が得られた。

社会的養護が必要な児童については、国の方針として家庭養育優先の原則が示されており、施設の中でもより家庭に近い形で養育できるよう、今後もユニット制を活かした支援体制を整えていく必要がある。

①　入退所の状況

事業所名		山形学園													
事業種別		児童養護施設										入所定員		40名	
項　目		４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	計	月平均
本年度	入所児童数	29	32	32	33	33	34	35	35	34	34	35	33	399人	33.3人
	新規入所	0	3	0	1	0	1	1	0	0	0	1	0	7人	0.9人
	退所児数	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	3人	0.3人
	入所率(%)	72.5	80.0	80.0	82.5	82.5	85.0	87.5	87.5	85.0	85.0	87.5	82.5	－	83.1%
児童内訳	高校生	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	9	130人	10.8人
	中学生	5	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	71人	5.9人
	小学生	10	11	11	12	12	12	12	12	11	11	12	12	138人	11.5人
	幼児	3	4	4	4	4	5	6	6	6	6	6	6	60人	5.0人
	３歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0人	0.0人
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0人	0.0人
	計	29	32	32	33	33	34	35	35	34	34	35	33	399人	33.3人
前年度入所児童数		35	35	34	34	33	33	34	34	33	33	33	29	400人	33.3人
前年度の入所率		87.5	87.5	85.0	85.0	82.5	82.5	85.0	85.0	82.5	82.5	82.5	72.5	－	83.3%

※入所児童数は、毎月末日現在の人数

②　入所理由区分　（令和４年３月31日現在）

虐　待	保護者の疾患等	経済的理由(破産等)	その他	合　計
26	0	0	7	33人

③　障がい等区分　（令和４年３月31日現在）

知的障がい児	注意欠陥／多動性障がい（ＡＤＨＤ）	広汎性発達障がい
８人	５人	２人

④　退所児童状況

〈自　立〉

- 県内就職　３名（うち自立援助ホーム入所１名、措置延長１名）
- 県外就職　０名

⑤　児童処遇

ア　年少児

- 基本的生活習慣の確立及び遊びを通して心身両面の育成に取り組んだ。
- 幼稚園を活用しながら、集団生活への適応力の向上を図った。
- 幼稚園入園前の幼児は、地域の子育てサロンや幼稚園の遊びの教室に参加し、地域との交流及び集団参加の体験を増やした。

イ　小学生

- 基本的生活習慣の習得に努めた。
- 余暇活動や遊びを通して、情緒の安定を図り心身両面の育成に努めた。
- 学校との日常の相互連絡や連絡会(年２回)等を通して、生活と学習の向上につなげた。
- 長期休みに子ども達の自主グループでの学習会を設け、効果が見られた。
- 居室単位の活動やグループ活動を通して、協調性や自主性の高揚につなげた。

ウ　中学生・高校生

- 部活動と学業の両立が図れるように指導にあたった。
- 進路指導については学校等と連携し、進路目標を立て意識の高揚を図った。
- 基本的生活習慣の習得を図り、社会性・協調性及び自立意欲の向上に努めた。
- スポーツ活動等を通して、情緒の安定を図り心身両面の育成につなげた。
- 高校卒業後の進路については、学校や関係者等と連携を図りながら十分な情報提供を行い、本人の意思を尊重しながら進めた。
- 高校３年生や高学年児童に対して、フレッシュマンスタート講座５回を実施した。

〈フレッシュマンスタート講座〉

	講座内容	講師等
第１回	法律教室	山形県青年司法書士会　古内あかり　氏他
第２回	ライフデザイン	MOTHER design　わだゆきこ　氏
第３回	性と生	助産師　山口節子　氏
第４回	ふれあいルームで一人暮らし体験	山形学園　職員・栄養士
第５回	公的な手続きの体験	山形学園　職員

- ステップアップ講座として、特別支援学校の児童が宿直員の指導により園内の環境整備を月６回実施した。

エ　全児童

- 個々の児童の意見が尊重される環境作りとその対応の充実を図った。
- 小中学校でタブレット端末での学習が導入され、児童一人ひとりがタブレットを持ち帰って課題に取り組む機会が増えたことに伴い、端末の使い方や学習の支援を行った。
- 調理実習やおやつ作りを実施し、生活技術の習得と変化のある生活作りに努めた。
- 感染防止対策を徹底した上で園外活動を実施し、社会体験の機会を確保した。
- 児童相談所や関係機関との連携を図り、処遇の向上に努めた。
- 以下の研修に参加した。

　○ＣＡＰ子どもワーク　　11月27日～11月29日　全児童参加

○いのちの学習（誕生学）　２月26日　18名参加
○生きるためのいのちの教育（紙芝居）　９月23日　11名参加
３月28日　12名参加

⑥　健康衛生管理

ア　感染症予防対策を徹底し、児童の健康維持と感染症の予防に努めた。

イ　健康診断を年２回実施した。

ウ　毎日の健康観察により、疾病の早期発見と早期治療に努めた。

エ　児童の検便を年３回実施し、感染症の予防に努めた。

オ　医療状況

区　　分	内科	外科	皮膚科	歯科	整形外科	耳鼻科	眼科	泌尿器科	精神科	計
服薬(実人数)	11	0	6	1	2	10	4	0	3	37人
通院(延人数)	144	1	40	39	13	55	27	0	16	335人
入院(延人数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0人
計	155	1	46	40	15	65	31	0	19	372人

⑦　給食の状況

ア　より家庭的な雰囲気になるように、献立、食器、提供の仕方などを工夫した。

イ　年齢に適した栄養の供給に努めた。

ウ　隔月に給食委員会を開き、適切な食事内容の検討や食生活への興味や関心を高めた。

エ　衛生的な食事環境作りに配慮し、正しい食習慣の確立に取り組んだ。

オ　食事作り、配膳、食器洗い、米とぎなど子ども達がお手伝いする機会を増やした。

カ　行事食、郷土食、バイキング、会食、外食、希望献立などを実施し、楽しく変化に富んだ食生活に努めた。

キ　手作りおやつを実施し、一緒に作る場面を増やし手作りの良さを児童に伝えた。

ク　ユニット調理を実施し、生活技術の向上を図った。（土・日・長期休み）

ケ　畑で作った野菜を食事に使用するなど食育に力を入れた。

⑧　行　　事

生活の潤いと集団生活への適応や協調性の向上を図るために次の行事を実施した。

月	行　　事　　内　　容
４月	職員歓迎会、入学祝い
５月	端午の節句、バーベキュー
６月	さくらんぼ狩り
７月	七夕
８月	収穫祭、グループ旅行
９月	お月見
10月	ふれあいまつり
11月	七五三、日帰り旅行
12月	クリスマス会
１月	だんご木刺し、もちつき会
２月	節分、スキー教室
３月	雛まつり、退園生激励会、卒業祝い、職員送別会

⑨　地域活動と社会資源の活用

ア　地域交流を目的とした行事は規模を縮小して施設内で実施した。地元の行事への参加や介護施設でのボランティア活動などは感染防止の観点から実施することができなかった。

イ　ボランティアや慰問等の受け入れ

２個人２件の慰問を除き、ボランティアや慰問等の受け入れを見送った。

ウ　実習生の受け入れ

- 資格取得のための実習　　４年大学６名、短期大学６名
- 介護体験実習　　４年大学２名

⑩　家族との関係作り・調整

ア　家庭へのファミリー・ケースワークを行い、早期家庭復帰が可能か検討を重ねた。

イ　家族も一緒に参加できる行事等では、親子関係の再構築や家族との関係作りに努めた。

ウ　夏休みや冬休みなどに、家庭への一時帰省を実施した。

エ　家族等との交流のない児童には、家庭生活体験事業を実施した。（２家庭に５名の児童、延べ21日）

オ　家庭訪問（１家庭　１回実施）

⑪　里親支援

- 学園児童の里親委託　０件　　• 里親サロン　３回　延べ35名　　• 家庭訪問　６回

⑫　職員会議・委員会等

運営会議12回、職員会議13回、処遇会議５回、フロアー会議13回、給食委員会２回、ケース検討会12回、ケースカンファレンス６回、心理療法士・職員に対する専門医の助言等（心理療法スーパービジョン）10回（オンライン会議）

⑬　職員研修

職員の資質向上のため、オンラインを利用した研修に積極的に参加した。また、感染症の予防や拡大防止のため、感染症に関する研修を実施した。

ア　内部研修会

- ＣＡＰおとなワークショップ　11月29日
- セカンドステップ・サードステップの理解　９月10日
- ＡＥＤ研修　７月20日
- 感染症予防研修　10月29日
- 嘔吐物処理方法の研修　１月28日
- いのちの学習　９月23日～９月24日、２月26日

イ　外部研修会（※はオンライン研修）

- 保育所・児童福祉施設関係種別新任研修会　※　６月22日～６月23日　４名
- 子どもの虐待防止セミナー　※　５月26日　３名
- 里親大会　※　９月28日　１名
- 山形県児童養護施設協議会研修会　11月17日　５名
- 児童福祉施設長研修　※　12月14日～12月28日　１名

・安心安全レベルアップ研修　※　　12月24日　２名
・ファミリーソーシャルワーカー研修会　※　　２月18日～３月10日　１名
・中堅職員研修　※　　３月８日～３月11日　１名
・権利擁護セミナー　※　　３月20日～３月30日　１名
・その他　２件

⑭　災害防止

ア　防災計画に基づき、消火訓練、避難訓練を定期的に実施した。

イ　自転車の安全点検を行った。

ウ　登下校や外出時の事故防止のため、交通安全教育を実施した。

⑮　心理療法の実施

ア　実施児童数　19名

イ　心理療法等の回数

・心理療法　584回　　・セカンドステップ　21回　　・サードステップ　９回
計614回

ウ　対象児童の年齢・主訴別数

	身体的虐待	ネグレクト	心理的虐待	その他	計
３歳～学齢前	2	1	3	0	6人
小　学　生	7	1	2	2	12人
中　学　生	0	2	1	3	6人
高校生、その他	1	6	0	2	9人
計	10	10	6	7	33人

⑯　苦情解決の状況

要望や意見はあったが、その都度話し合いで解決することができた。

⑰　こどもショートステイ事業（山形市委託事業）

家庭を取り巻く環境が複雑化している中で、子育て支援事業の一環として実施し、令和３年度は14名（延40日）の利用実績があった。

V　高齢者総合福祉施設すげさわ

理念である「入所者・利用者、誰もが安心できる暮らしの実現」に向けて業務にあたった。経営的には、「すげさわ」の各事業所が介護報酬による経営の維持に取り組んだ。

①　介護保険制度に対応し、次の事項に取り組んだ。

ア　介護報酬による経営の維持

イ　給付管理と介護報酬事務の正確化

ウ　利用者の確保

エ　サービスの質の向上

オ　ケアプラン・リハビリプラン・栄養マネジメントの適正度と実施度の向上

カ　地域支援機能の強化

②　地域との交流

夏祭り（７月28日）及び敬老会（９月７日）は、新型コロナウイルスの感染防止のため、ご家族や外部への案内を自粛し、施設内で入所者と職員のみで開催した。

③　地域貢献活動

すげさわ団地内市道のごみ拾い、市有地の除草、資源回収への協力等を実施した。

④　地域との連携

ア　地区会議への参加

コロナ禍のため、案内いただいた中で必要最小限の参加とした。

イ　地区内学校の入学式への参加

コロナ禍により案内がないため、参加はなかった。

⑤　地区自治会、近隣施設との連携

ア　防災協力を図るため、防災訓練を実施したが、地区等への参加案内は自粛した。

イ　本沢地区と福祉施設との災害時相互応援協定連絡会議は、コロナ禍のため開催見送りとなった。

⑥　「すげさわ経営健全化プロジェクト会議」の開催

すげさわの経営状況の情報共有、経営安定化に向けた事業の検討のため、各部所より中堅役職員の会議を月１回開催した。

⑦「すげさわ経営会議」の開催

総合福祉施設として、有機的な連携を図ることや経営状況を共有するため、各部所幹部職員の会議を月１回開催した。

⑧　職員研修の実施

職員の資質の向上を図るため、次の研修を実施した。

ア　内部研修

実施月	研　修　内　容	講　師　等
４月	事業計画書説明（書面開催）	研修委員会
５月	救命救急（心肺蘇生・AED の使用）	研修委員会
６月	認知症について 食中毒予防について	前田副センター長（認知症ケア専門士） 田中主任管理栄養士

7月	車両の取り扱いについて、ヒヤリハット分析・報告	リスクマネジメント委員会
8月	褥瘡予防について（書面開催）	褥瘡・リハビリ委員会
9月	発電機の操作について	防災委員会
10月	百歳体操の実践	安全衛生委員会
11月	褥瘡予防について	褥瘡・リハビリ委員会
12月	高齢者虐待・身体拘束について	リスクマネジメント委員会
1月	看取りに関する研修（書面開催）	研修委員会
2月	研究発表（書面開催）	研修委員会
3月	研究発表（ポスターセッションにて開催）	研修委員会

イ　外部研修（県内外）

コロナ禍のため、オンライン研修に参加した。

⑨　各種委員会

ア　安全衛生委員会

職員の健康診断（インフルエンザワクチン接種・3回の新型コロナウイルスワクチン接種)、メタボリックシンドロームに着目した特定健診及び特定保健指導、感染症マニュアルの見直し、産業医との連携、水道水残留塩素測定、ストレスチェック等を実施した。

イ　防災委員会

各種想定防災訓練、防災マニュアルの見直し、機器取扱マニュアル、自主点検、緊急連絡網の作成を行った。

ウ　広報委員会

すげさわ通信（機関紙)・家族会だより・施設のパンフレット作りを行った。ホームページを利用したショートステイ、デイサービスセンターの空き情報の発信や施設の様子の紹介にも力を入れた。

エ　リスクマネジメント委員会

ヒヤリハット報告書などを通して、事故の分析・リスクの回避・安全な環境の提供・介護事故防止に努めた。虐待や身体拘束の研修を行い、発生防止の徹底を図った。

オ　研修委員会

実地指導に義務づけられた研修を中心に開催した。また、全体会については新型コロナウイルスの感染防止を図るため、参加人数の制限や座席の配置を工夫して開催したほか、書面開催も併用した。

カ　食事の委員会

選択食の希望調査、水分補給用飲み物の在庫管理、行事食の企画運営、ソフト食の導入検討、食事についての提案等を行った。

キ　褥瘡・リハビリ委員会

褥瘡の予防、褥瘡のある方の対応に力を入れた。褥瘡予防のため、電動体位交換ベッドを活用した。

ク　痰吸引委員会

痰吸引研修を修了した介護職員が、看護職員との連携・協働のもとに痰吸引や経管栄養（医療的ケア）の取り扱いを迅速かつ安全に実施できるように取り組みを行った。

また、今年度は介護福祉士を取得して短大を卒業した職員２名について、県に対して介護福祉士喀痰吸引実地研修機関の登録を行い、施設内での演習を実施し、実地研修を修了した。

ケ　レクリエーション委員会

各ユニットでレクリエーション活動を展開し、装飾や季節が感じられる活動を実施し、入所者に潤いを提供した。

1　特別養護老人ホーム菅沢荘（介護老人福祉施設）

安心・安全な介護、事故及び各種感染症の防止に努めた。ベッドの稼動率は、目標の95％を上回り98.9％であった。自主事業の認知症カフェは新型コロナウイルス対策を徹底しながら11月から１月に３回開催した。平成28年６月より地域貢献事業の一環として毎月２回本沢地区高齢者を対象とした買物支援事業を実施しているが、コロナ禍のため１月から３月までは中止とした。

①　利用状況

事業所名	特別養護老人ホーム菅沢荘													
事業種別	介護老人福祉施設										入所定員		80名	
項　目	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	計	月平均
営業日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365日	－
延入所者数（人）	2,331	2,479	2,381	2,467	2,441	2,366	2,476	2,351	2,468	2,477	2,177	2,459	28,873人	2,406.1人
稼働率（％）	97.1	100.0	99.2	99.5	98.4	98.6	99.8	98.0	99.5	99.9	97.2	99.2	－	98.9%
平均要介護度	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	4.0	－	3.9
前年度の延入所者数	2,362	2,403	2,353	2,421	2,394	2,357	2,406	2,343	2,453	2,472	2,245	2,387	28,596人	2,383.0人
前年度の稼働率	98.4	96.9	98.0	97.6	96.5	98.2	97.0	97.6	98.9	99.7	100.2	96.3	－	97.9%

• 年齢構成　（令和４年３月31日現在）

年齢	60～69歳	70～75歳	76～80歳	81～85歳	86～90歳	91～95歳	96歳以上	計	平均年齢
人数	2	5	11	8	19	23	12	80人	87.3歳

• 介護状況　（令和４年３月31日現在）

区分	歩行			食事			排泄			入浴			着脱衣			認知症	おむつ	車椅子	寝たきり	知的障がい	精神障がい
	自立	半介助	全介助	自立	半介助	全介助	自立	半介助	全介助	自立	半介助	全介助	自立	半介助	全介助						
人数	4	2	74	32	14	34	1	19	60	0	6	74	3	14	63	70	74	74	12	4	5

②　身体拘束ゼロへの取り組み

拘束は行っていない。

③　ケアプランに基づくサービスの提供

ア　ケアプランの精度を高め、かつ実施度を上げることに努めた。

イ　ケアカンファレンスを随時開催し、迅速なケアプランの見直しを行った。

ウ　定期的なモニタリングを実施した。

④　ユニットケアの実施

内容の充実を図った。

⑤　個別的ケアの実施

ア　個別的な関わりを入所者に対して適時実施した。

イ　個別的ケアでは、手浴、足浴、散歩、リハビリ、整容等を実施した。

⑥　入所者の安全と健康の確保

ア　安全衛生委員会を中心に、疥癬、レジオネラ菌、ノロウイルス、インフルエンザ及び特に新型コロナウイルス等の感染予防に努めた。

イ　安定した健康状態の保持と早目の処置対応に努めた。

ウ　健康診断の実施

エ　インフルエンザ予防接種を入所者及び職員が接種し、流行を防止できた。

オ　嘱託医と協力病院との連携に努めた。

カ　健康管理状況　（令和４年３月31日現在）

区分	内　科	精神科	皮膚科	歯　科	整形外科	耳鼻科	眼　科	泌尿器科	婦人科	外　科	その他	計
服薬（実人数）	80	23	12	0	5	0	0	0	0	0	0	120人
通院（延人数）	27	0	5	0	12	1	18	44	4	48	4	163人
入院（延人数）	13	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	15人
計	120	23	17	0	17	1	18	46	4	48	4	298人

⑦　栄養管理

ア　他職種との協働で適切な栄養ケアマネジメント及び経口維持の取り組みを実施し、個別の栄養管理を行った。

イ　行事食の提供（選択食58回、季節に合わせた節句料理やお祝い膳12回、ところ天の会１回　計71回）

ウ　飲酒の日の開催（毎週木曜日）

エ　食事の種類

一般食　普通食57人（高栄養ゼリー、高栄養流動食含む）

療養食　糖尿病食10人、膵炎食１人、心臓病食１人、経管栄養食11人　計80人

オ　食事形態　（令和４年３月31日現在）

主食	ごはん	軟ごはん	全粥	ミキサー粥	ソフト粥	パン	計
人数	14	7	38	4	5	1	69人

副食	常食	キザミ食	極キザミ食	ミキサー食	計	うちソフト食併用者
人数	16	19	28	6	69人	29人

流 動 食	高栄養ゼリー	高栄養流動食	経管栄養	計
人数	5	1	11	17人

※うち食事併用者９人

⑧　作業療法士によるリハビリテーション　　（令和４年３月31日現在）

項　目	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	計	月平均
評　　価	87	88	83	85	84	86	87	84	83	84	78	83	1,012人	84.3人
個　　別	76	62	29	30	36	2	34	22	34	42	43	20	430人	35.8人
そ の 他	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	2	1	6人	0.5人
福祉用具	4	0	0	1	10	2	4	4	4	2	8	4	43人	3.6人
計	167	150	112	116	131	90	125	110	122	129	131	108	1,491人	124.3人

⑨　行事・レクリエーション

生活の潤いと楽しさを演出するため、新型コロナウイルスの感染防止を図りながら、次の行事を実施した。

ア　全体行事　　夏祭り、敬老会、芋煮会（それぞれ職員と入所者のみの参加）

イ　季節行事　　花見、節句、七夕、紅葉狩り、クリスマス会、正月

ウ　活　　動　　音楽療法、朝の体操、創作活動、書道、絵画等

エ　レクリエーションワーカーによる各種レクリエーションの実施

⑩　各種会議の開催

入所者の処遇の安定と向上を図るため、新型コロナウイルスの感染防止を図りながら、次の会議及び委員会を開催した。

- すげさわ経営会議　10回
- ユニット職員会議　12回
- カンファレンス　20回
- 各種委員会の開催　110回
- 職員全体会議　８回

⑪　入所決定会議の開催

次の入所者を選出するため、緊急性・透明性・公平性に留意し、年２回開催した。

⑫　災害訓練

- 総合防災訓練（地震・火災避難訓練）各１回
- 部分訓練　４回
- 防災機器取り扱い講習　１回
- 夜間想定避難訓練　１回
- 防災設備自主点検　12回
- 通報招集訓練　１回

⑬　実習生等の受け入れ（コロナ禍のため受け入れを制限）

- 施設実習　２名
- 介護初任者研修　25名

⑭　ボランティア活動（コロナ禍のため受け入れを制限）

- 不定期的活動　０人　　年間延べ活動人数　０名

⑮　苦情解決

今年度は苦情がなかった。

⑯　家族会との連携（コロナ禍のため実施内容を制限）

- 夏祭りや敬老会の共催を予定していたが、新型コロナウイルスの感染防止のため自粛していただいた。
- アンケート調査の実施

⑰　高齢者世話付住宅生活援助員派遣事業（山形市委託事業）

高齢者世話付住宅（シルバーハウジング）に生活援助員を派遣し、入居者の安否確認、生活相談を実施し、関係機関と連携に努め、入居者の安全安心な生活の確保に努めた。

- 市営南山形住宅（Ｅ棟）35世帯のうち、シルバーハウジング10世帯
- 市営南山形住宅（Ｇ棟）32世帯のうち、シルバーハウジング10世帯

ア　安否確認

入居者の希望を考慮して確認の曜日を決め、電話又は訪問で安否の把握を実施した。

〈Ｅ棟・Ｇ棟〉

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	計
実施日数	21	18	22	20	21	20	21	20	23	19	18	22	245日
電話	75	81	94	90	95	92	82	90	91	80	80	94	1,044回
訪問	0	1	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	4回
計	75	82	94	92	95	93	82	90	91	80	80	94	1,048回

イ　生活相談

毎月相談日（月８時間）を設けたが、相談はなかった。

〈Ｅ棟・Ｇ棟〉

内容	相談の形態				計
	電話	訪問	相談日	その他	
医療・健康	0	0	0	0	0件
福祉	0	0	0	0	0件
家族	0	0	0	0	0件
その他	0	0	0	0	0件
計	0	0	0	0	0件

ウ　緊急対応

緊急時対応は「緊急時対応マニュアル」に基づき、電話及び訪問により速やかに状況を確認し必要な対応を行った。夜間・休日の通報及び初期対応を警備会社に委託し、連絡を受けた場合は職員が迅速に対応した。

〈Ｅ棟・Ｇ棟〉

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	計
実報(時間内)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
実報(時間外)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
誤報(時間内)	2	0	0	2	0	0	2	0	1	1	1	0	9件
誤報(時間外)	4	3	0	4	1	3	1	0	1	1	2	0	20件
計	6	3	0	6	1	3	3	0	2	2	3	0	29件

エ　関係機関との連携

毎月、市長寿支援課に実績報告を行い、生活状況や介護の状態の悪化など困難なケースが発生した場合は、連携を図り対応した。

〈E棟・G棟〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
包括支援センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
サービス業者	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	1	0	4件
地域関係者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
長寿支援課	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
住宅管理センター	0	0	0	3	1	0	1	0	0	0	1	0	6件
そ　の　他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
計	0	0	0	4	2	0	1	0	1	0	2	0	10件

※住宅管理センターの件数は、発報箇所が不明なため再点検を依頼した。

オ　一時的家事援助

〈E棟・G棟〉　0件

2　菅沢荘ショートステイ（短期入所生活介護事業）

稼働率は74.3%から95.2%で推移し、月により変動が激しかった。令和２年度の平均稼働率は87.8%で、令和３年度は85.8%であった。送迎数は、月平均４件で令和２年度の4.2件とほぼ同様であった。苦情はなかった。

①　利用状況

事業所名	菅沢荘ショートステイ													
事業種別	（介護予防）短期入所生活介護										利用定員		20名／日	
項　目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
営業日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365日	－
延利用者数（人）	470	463	490	468	518	514	579	503	570	590	514	584	6,263人	521.9人
稼働率（%）	78.3	74.7	81.7	75.5	83.5	85.7	93.4	83.8	91.9	95.2	91.8	94.2	－	85.8%
平均要介護度	2.8	3.0	3.0	3.0	3.2	2.7	2.3	2.5	2.5	2.6	2.3	2.2	－	2.7
送　迎　数	4.8	4.1	5.4	3.2	3.4	3.2	4.3	4.5	4.3	3.7	3.5	3.0	－	4.0
前年度の延利用者数	572	531	514	497	561	539	552	523	510	575	513	525	6,412人	534.3人
前年度の稼働率	95.3	85.6	85.7	80.2	90.5	89.8	89.0	87.2	82.3	92.7	91.6	84.7	－	87.8%

②　作業療法士によるリハビリテーション

項　目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
評　　価	3	0	1	1	1	0	1	0	0	0	0	1	8人	0.7人
個　　別	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1人	0.1人
運動療法	180	171	179	190	189	239	228	235	245	255	178	287	2,576人	214.7人
福祉用具	1	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	4人	0.3人
そ　の　他	2	2	0	0	0	0	0	0	5	4	14	1	28人	2.3人
計	186	173	180	191	190	240	230	237	250	259	192	289	2,617人	218.1人

3　菅沢デイサービスセンター　通常型・認知症型（通所介護事業）

通常型は平均稼動率71.8%であり、令和２年度の74.9%を下回った。認知症型の平均稼働率は29.1%で、令和２年度の44.0%を下回った。

① 利用状況

事業所名	菅沢デイサービスセンター（通常型）													
事業種別	通所介護、介護予防・日常生活支援総合事業（通所型サービス）										利用定員		25名／日	
項　目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
営業日数	22	21	22	23	22	22	21	22	22	20	20	23	260日	－
延利用者数（人）	372	420	402	398	354	429	397	408	387	332	339	429	4,667人	388.9人
1日平均利用(人)	16.9	20.0	18.3	17.3	16.1	19.5	18.9	18.5	17.6	16.6	17.0	18.7	－	17.9人
稼働率（%）	67.6	80.0	73.1	69.2	64.4	78.0	75.6	74.2	70.4	66.4	67.8	74.6	－	71.8%
平均要介護度(総合事業除く)	1.9	1.9	1.8	1.8	1.9	1.9	1.9	1.9	1.8	1.8	1.9	1.8	－	1.9
前年度の延利用者数	405	362	415	439	395	444	408	428	422	354	365	416	4,853人	404.4人
前年度の稼働率	73.6	69.0	75.5	76.3	75.2	80.7	74.2	81.5	76.7	70.8	73.0	72.3	－	74.9%

事業所名	菅沢デイサービスセンター（認知症型）													
事業種別	（介護予防）認知症対応型通所介護										利用定員		10名／日	
項　　目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
営業日数	26	26	26	26	27	26	26	26	26	24	24	26	309日	－
延利用者数（人）	86	107	101	91	77	84	78	79	62	42	42	51	900人	75.0人
1日平均利用(人)	3.3	4.1	3.9	3.5	2.9	3.2	3.0	3.0	2.4	1.8	1.8	2.0	－	2.9人
稼働率（%）	33.1	41.2	38.8	35.0	28.5	32.3	30.0	30.4	23.8	17.5	17.5	19.6	－	29.1%
平均要介護度(介護予防除く)	1.9	1.9	1.9	1.7	1.7	1.8	1.8	1.9	1.8	1.8	1.7	1.7	－	1.8
前年度の延利用者数	102	107	141	130	131	131	118	121	112	90	82	99	1,364人	113.7人
前年度の稼働率	39.2	41.2	54.2	48.1	50.4	50.4	45.4	46.5	43.1	37.5	34.2	36.7	－	44.0%

② 機能訓練

選択レクリエーションを行い、介護予防・日常生活支援総合事業においては、機能訓練指導員が個別及び集団の機能訓練を実施した。

③ 健康管理

視診、血圧・体温測定（午前・午後２回）、体重測定、服薬の管理など利用者の健康管理と指導を行った。また、新型コロナウイルスの感染防止のため、手洗い、手指消毒、換気等をまめに行った。

④ 家族との連携

連絡帳及び送迎時の情報交換を通して連携を密にし、信頼関係の形成に努めた。

⑤ 関係機関との連携

居宅介護支援事業所・地域包括支援センターとの連携を密にし、適切なサービスの提供に努めた。また、自作のパンフレットやお便りの発行、空き情報の提供にも努めた。

⑥ 栄養管理

利用者の嗜好を大切にしながら、季節の行事食を折り混ぜて満足感の得られる食事の提供に努めた。

- 季節に合わせたお祝い膳
- 薪を焚いて作る芋煮会の実施

⑦ 災害訓練

菅沢荘と合同で災害訓練を定期的に実施した。

⑧　主な活動

４月	菅沢茶屋（花見）、誕生会	10月	芋煮会、誕生会、紅葉狩り
５月	ドライブ、誕生会、運動会	11月	誕生会、ショッピング
６月	出前寿司、音楽鑑賞、誕生会	12月	忘年会、誕生会、クリスマス会
７月	ショッピング、誕生会	１月	初詣、誕生会
８月	誕生会 総合事業対象者の野外活動	２月	豆まき、誕生会
９月	出前寿司、敬老会、誕生会	３月	ショッピング、誕生会

⑨　苦情解決

今年度は苦情がなかった。

⑩　運営推進会議（認知症型）

９月は通常開催し、２月は書面開催とした。

４　山形西部地域包括支援センター

社会福祉士２名、保健師２名、主任介護支援専門員１名、事務員１名の６名体制で業務にあたったが、保健師１名の退職により10月から欠員が生じた。

高齢者世帯や複合的な課題を抱える世帯が増える中、関係機関とのネットワークの構築により権利擁護に努め、個別地域ケア会議を適宜開催しながら相談業務を行った。新規相談件数は令和２年度を18％上回り、月平均37件であった。

山形市第８期保健福祉計画住民懇談会の開催により、地域の実情や課題を地域住民と関係者間で共有し、共に支え会い繋がる地域づくりや、住民向けの介護予防や備える研修会を開催した。

介護予防ケアマネジメントは月200件前後で、昨年度と大きな増減はなかった。

①　総合相談支援業務

ア　相談関係

項 目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
新規相談件数	73	47	43	40	33	31	38	32	36	23	25	28	449.0件	37.4件
連絡調整件数	623	536	789	635	722	612	828	627	782	724	741	845	8,464.0件	705.3件
実態把握件数	11	18	26	29	19	26	36	27	27	19	26	20	284.0件	23.7件

イ　介護予防の講話等

- 地域のサロン（29回）
- 南山形健康講話（８回）福祉道場（２回）
- 西山形はつらつ元気教室（１回）
- 本沢備える研修（２回）
- 関係団体への研修（２回）

ウ　地域との連携

- 第８期計画住民懇談会（兼）包括支援センターネットワーク連絡会開催（５回）
- 地域福祉推進会議（３回）、協力員等研修会（８回）、地区関係者研修会等（４回）

- 民生児童委員定例会／丸ごと相談会参加（27回）
- 地域密着型運営推進会議（４回）
- 西山形介護者サロンいっぷぐ会（９回）
- 本沢元気もりもり応援隊派遣調整（20回）
- 認知症カフェ（南山形市営住宅／３回）

エ　広報活動

- センターだよりの発行（５回）
- ツナガル大曽根の発行（２回）

②　権利擁護業務

- 成年後見制度等への対応（２件）
- 高齢者虐待等への対応（17件）

③　包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

- 居宅介護支援事業所連絡会開催（２回）／幹事会（２回）
- 介護支援専門員等への個別支援（６件）　改定ハザードマップを各居宅へ配布
- 本沢地区福祉施設相談員情報交換会（１回）
- 個別地域ケア会議（10回）
- 自立支援ケア会議（２回）

④　介護予防ケアマネジメント業務等

項　目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
予防給付者数	112	116	117	114	111	108	112	118	117	110	110	107	1,352件	112.7件
(内)委託者数	36	31	32	32	35	34	33	36	34	32	33	32	400件	33.3件
総合事業対象者数	95	95	98	94	90	87	84	86	87	87	86	86	1,075件	89.6件
(内)委託者数	11	9	8	8	7	6	5	4	3	2	2	2	67件	5.6件
認定調査件数	2	0	0	4	4	1	3	4	1	2	0	0	21件	1.8件
住宅改修件数	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	2	5件	0.4件

⑤　苦情解決

今年度は苦情がなかった。

５　居宅介護支援事業所すげさわ

介護支援専門員３名体制で居宅介護支援事業を行い、サービス提供事業所と連携を図り契約者のニーズに沿った適切なケアプランの作成に努めた。

請求件数の月平均は、予防委託分を介護カウントに換算（予防１件＝介護0.5件）すると118.3件であった。令和２年度と比較すると、長期の入院や施設入所の自然減もあり請求件数は減少に見えるが、介護支援専門員一人当たりの担当件数を比較すると、令和２年度４名体制で32.6件であるのに対し、令和３年度は３名体制で39.4件となり担当件数は増加となった。苦情はなかった。

① ケアプラン作成

事業所名	居宅介護支援事業所すげさわ													
事業種別	居宅介護支援										利用定員		117名	
項　目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
介護給付（件）	114	115	114	116	112	115	118	122	118	115	110	118	1,387件	115.6件
予防給付（件）	13	3	5	4	6	5	5	6	5	4	4	5	65件	5.4件
総合事業（件）	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4件	0.3件
計	128	119	120	121	118	120	123	128	123	119	114	123	1,456件	121.3件
前年度件数	152	146	147	145	143	141	146	137	136	133	128	133	1,687件	140.6件

Ⅵ　養護老人ホームあたご荘

コロナ禍でも安全・安心な生活が送ることができるよう入所者の生活環境を維持するとともに、感染対策に留意した新しい生活様式の定着を図った。各市町及び関係機関との連携により、本年度は７名が入所したが、死亡や措置解除等により７名が退所した。令和３年度末の入所者数は85名で、令和２年度末と同数であった。

⑴　入所者の状況

①　入退所状況

事業所名		養護老人ホームあたご荘													
事業種別		養護老人ホーム、外部サービス利用型特定施設										入所定員		100名	
項　目		４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	計	月平均
本年度	入所者数	87	88	87	88	88	88	89	88	86	86	85	85	1,045人	87.1人
	新規入所	2	1	0	2	0	0	1	1	0	0	0	0	7人	0.6人
	退所者数	0	0	1	1	0	0	0	2	2	0	1	0	7人	0.6人
	入所率（%）	87.0	88.0	87.0	88.0	88.0	88.0	89.0	88.0	86.0	86.0	85.0	85.0	－	87.1%
要支援・要介護者数		55	56	54	56	55	56	56	55	53	54	53	53	656人	54.7人
外部サービス契約者数		29	28	28	27	28	28	28	31	30	33	31	30	351人	－
前年度の入所者数		87	87	87	87	87	87	89	88	86	85	86	85	1,041人	86.8人
前年度の入所率		87.0	87.0	87.0	87.0	87.0	87.0	89.0	88.0	86.0	85.0	86.0	85.0	－	86.8%

※「入所者数」は毎月末日現在の人数、「外部サービス契約者数」は入院者を除いた人数

ア　入所者の前の状況

事由	男性	女性	計
他施設・病院	4	3	7人
自　宅	0	0	0人
計	4	3	7人

イ　退所者の状況

事由	男性	女性	計
他施設入所等	1	2	3人
死　亡	0	4	4人
計	1	6	7人

②　在所期間　（令和４年３月31日現在）

性別／期間	～1年	1～4年	5～９年	10～14年	15～19年	20～年	計	平均期間
男	4	17	8	5	0	1	35人	5年3ケ月
女	3	24	12	10	0	1	50人	6年1ケ月
計	7	41	20	15	0	2	85人	5年9ケ月

※最長在籍26年10ケ月

③　年齢構成　（令和４年３月31日現在）

性別／年齢	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95歳以上	計	平均年齢
男	3	13	7	4	5	2	1	35人	77歳
女	0	12	6	12	8	11	1	50人	82歳
計	3	25	13	16	13	13	2	85人	80歳

※最年長者　99歳

④　措置者の人数枠と入所者数　（令和４年３月31日現在）

市・町（枠）	男性	女性	計	市・町（枠）	男性	女性	計
山形市（86）	32	46	78人	山辺町（４）	0	1	1人
天童市（３）	2	0	2人	中山町（３）	0	1	1人
東根市（２）	0	2	2人	河北町（１）	0	0	0人
寒河江市（１）	1	0	1人	計（100）	35	50	85人

⑤　要支援･要介護者及び外部サービス利用者の状況　（令和４年３月31日現在）

介護度		要支援１	要支援２	要介護１	要介護２	要介護３	要介護４	要介護５	計
人数		13	7	13	15	4	1	0	53人
外部サービス契約者		4	2	10	13	4	1	0	34人
	訪問介護	4	2	8	11	3	1	0	29人
	通所介護	3	0	1	4	0	1	0	９人
	訪問入浴	0	0	1	0	2	0	0	３人
	福祉用具貸与	0	1	5	11	3	1	0	21人
	訪問リハビリ	0	1	0	0	0	0	0	１人

⑥　老人一時入所者の利用状況（ショートステイ）

経済的状況	入所実人員	入所延日数	平均利用日数	うち措置入所した人数（令和３年度中）
生活保護世帯	3人	596日	199日	1人
その他の世帯	8人	360日	45日	0人
計	11人	956日	－	1人

※令和４年３月31日現在一時入所者３人（その他の世帯）

⑦　無年金者　７人

⑧　障がい者手帳所持者　28人

ア　身体障がい　13人　　イ　精神障がい　11人　　ウ　療育手帳（知的障がい）５人

⑨　各種疾患に伴う主な定期・不定期受診者　（令和４年３月31日現在）

疾患名（精神）	人数	疾患名（内科）	人数	疾患名（その他）	人数
認知症	23人	高血圧症	54人	脳血管疾患	21人
統合失調症	17人	心臓疾患	28人	白内障	17人
躁うつ病	３人	便秘症	29人	骨粗鬆症	９人
睡眠障害	21人	悪性新生物	13人	皮膚疾患	16人
てんかん	4人	高脂血症	15人	前立腺疾患	8人
		糖尿病	9人	腰痛・腰椎症	8人
		気管支喘息	4人		

⑩　入院状況

	精神科	内科	外科	循環器科	その他	計	平均入院日数
人数	10	5	3	2	10	30	83日

※令和４年３月31日現在の入院者８人

⑪　面会状況　０人　※感染防止を考慮し、面会を中止している。

⑵　援助活動

①　主な行事等

４月	合同お茶会（中止）	10月	県芸能祭（中止） バス旅行（中止）
５月	端午の節句輪投げ大会 バス旅行（中止）	11月	石行寺社中お茶会（中止）
６月	県老施協輪投げ大会（中止） 笹巻づくり	12月	クリスマスのつどい 年末行事
７月	夏まつり納涼週間 桃菊会慰問、フラダンス慰問	１月	新年行事　　新春企画 だんご木刺し
８月	教養人生講話会	２月	節分のつどい
９月	敬老祝賀会	３月	桃の節句のつどい 教養人生講和会 新春輪投げ大会（１月から延期）

※買い物ツアー（６～11月）車窓ツアー（10月、12月）

②　クラブ活動等

クラブ名	きれいにし隊	映　写　会	大人の塗り絵	買い物ツアー	華道クラブ	合　　計
回数	44回	39回	11回	23回	2回	119回
人数	250人	436人	132人	149人	18人	985人

※入所者の自立支援のため「百歳体操」と「荘内ウォーキング」を毎日実施した。

⑶　食　　事

感染対策を実施しながら、季節が感じられ「やまがた」の特徴を生かした変化のある献立にするとともに、入所者の高齢化に伴う嚥下機能の低下に対応した食事を提供した。

①　選択食（週２回実施）

②　お祝い膳（新年祝賀会、敬老祝賀会）

③　季節献立（ぼたもち、寿司、芋煮、クリスマスメニュー）

④　季節行事の献立（甘酒、お汁粉）

⑤　食事委員会の開催（献立、新メニュー、食席等の検討）

⑥　アンケートの実施（満足度の把握、意見・要望の聴取）

⑦　食事形態

主　　食		副　　食		
ごはん	全　粥	普　通	刻　み	極刻み
41人	44人	43人	25人	17人

※アレルギー等の対応食42人、減塩食７人、糖尿食３人

⑷　健康及び衛生管理

①　往診（医師の出張診療）

内　科（月２回）　精神科（月２回）　皮膚科（月１回）　整形外科（月１回）

②　訪問歯科診療（月２回）　要介護認定該当者

③　健康診断（年２回）　５月、12月（血液、尿検査）

④　インフルエンザ予防接種（11月）及び肺炎球菌予防接種（２月)、新型コロナウイルスワクチン接種（３回）

⑤　機能訓練（毎朝の百歳体操の実施）

⑥　口腔ケア（介助を要する入所者へ実施）

⑦　体重測定（毎月１回）及び血圧測定（毎月２回）

⑧　感染症対策委員会（嘔吐物処理研修、感染症予防対策）

⑸　災害及び事故防止対策

①　防災訓練

- 土砂災害想定の避難訓練（非難確保計画による避難経路確認）　６月22日
- 火災想定の避難訓練（消火訓練）　９月21日
- 夜間想定の避難訓練（非常連絡網による伝達訓練）　11月16日
- 地震想定の避難訓練（消火訓練／非常食体験）　３月15日

②　毎月の安全点検（居室・廊下等）

③　防災委員会（訓練内容の検討・実施、課題の改善）

④　リスクマネジメント委員会（毎月開催、事故防止対策の検討・周知）

⑹　職員研修

職員のスキルアップ及び入所者へのサービス向上を図るため、職員研修を実施した。

①　職場内研修

- 年度内の事業について（１回）
- 感染症対策実技研修（１回）
- 身体拘束について（２回）
- ハラスメントについて（２回）
- 事故防止について（１回）
- 腰痛防止について（１回）
- 入所者アンケート集計（１回）
- 個別ケース検討（18回）
- 各委員会の計画、総括（２回）
- 認知症ケア研修（１回）
- 高齢者虐待について（２回）
- 誤嚥性肺炎について（２回）
- 特定施設について（１回）
- 外部研修報告会（１回）
- 荘長と語る会まとめ報告（１回）

⑺　荘長と語る会　（荘内の通りごとに５回実施）

⑻　アンケートの実施（施設の生活等及び食事について　各１回実施）

⑼　あたご荘親睦会（６回）　入所者へ年間の行事説明、意見交換

⑽　介護等体験受け入れ（２名）

Ⅶ　ヘルパーステーションあたご

各種疾患や障がいの程度により、要支援・要介護の認定を受けたあたご荘入所者のうち、利用契約を締結した方を対象に、新型コロナウイルスの感染防止対策に留意しながら、下記のとおり身体介護サービスを提供した。

年間利用者数は、要支援者を含め343人で目標の400人を達成することができなかった。その要因としては、あたご荘退所者７名のうち６名がサービス利用者だったことが考えられる。

また、適切なサービスの提供や感染防止対策のため、あたご荘職員と合同で研修を行い、職員のスキルアップを図った。

①　サービスの提供状況

ア　要介護者

事業所名	ヘルパーステーションあたご													
事業種別	訪問介護、介護予防･日常生活支援総合事業（訪問型サービス）										利用定員		－名	
項　目	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	計	月平均
要介護認定者	31	32	31	33	33	34	35	33	31	33	32	33	391人	32.6人
訪問介護サービス利用者	21	22	21	21	22	21	22	24	23	25	24	25	271人	22.6人
排　泄　介　助	16	16	15	15	16	16	16	17	16	17	16	16	192人	16.0人
入　浴　介　助	16	17	16	16	16	15	16	19	19	21	22	20	213人	17.8人
口　腔　ケ　ア	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	60人	5.0人
食　事　介　助	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0人	0.0人
計	37	38	36	36	37	36	37	41	40	43	43	41	465人	38.8人
前　年　度　実　績	41	42	44	41	42	42	41	43	42	38	36	34	486人	40.5人

イ　要支援者

項　目	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	計	月平均
要支援認定者	24	24	23	23	22	22	21	22	22	21	21	20	265人	22.1人
訪問介護サービス利用者	7	6	6	5	5	6	5	6	6	7	7	6	72人	6.0人
入　浴　介　助	7	6	6	5	5	6	5	6	6	7	7	6	72人	6.0人
前　年　度　実　績	7	7	7	8	8	8	8	7	7	7	7	7	88人	7.3人

Ⅵ　たきやま地域包括支援センター

令和３年度は、若い世代を含めた地域全体での認知症理解と見守り体制の構築に重点的に取り組んだ。介護保険事業所と地区社会福祉協議会との連携･協力により、令和４年度に子ども･高齢者見守り連絡所を開所する。これにより誰もが住み慣れた場所で安心して生活できる地域作りと地域共生社会の基盤を構築する。

実績件数については、新規相談があっても要介護となるケースが多く、委託率を極力抑え経営の維持に努めた。令和３年度より専門職の事務負担軽減のために事務員を配置し、以前からの課題であった単身高齢者宅の訪問や支援が必要な方を把握するため、実態把握や三者懇談会参加などアウトリーチに力を入れることができた。実態把握件数は前年度比５割増しを目標に概ね達成することができた。

① 総合相談支援業務

ア 相談実績

項 目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
新規相談件数	38	22	22	20	31	36	34	37	33	40	33	29	375件	31.3件
連絡調整件数	775	627	977	754	893	864	945	859	943	898	816	1,062	10,413件	867.8件
実態把握件数	15	18	19	15	20	27	24	28	27	24	22	24	263件	21.9件

イ 地域との連携

- 地域包括支援センターネットワーク連絡会（１回）
- 民生委員定例会（12回）
- 福祉協力員三役会（７回）、地区代表者会議（４回）
- 福祉協力員大会・研修会（１回）
- 滝山地区福祉推進会議（１回）
- 滝山地区社会福祉協議会幹事会（６回）
- 地区社協介護予防のつどい中止に伴うフレイル（虚弱）予防リーフレットの配布
- 三者懇談会（５回）
- 青少年健全育成協議会（１回）
- 我が事、まるごと地域づくり（３回）
- いきいきサロンや介護予防教室での相談対応（23回）
- 絆つくりの会（４回）

ウ 広報活動

- 包括支援センターだより「あんしん定期便」の発行（６回）

② 権利擁護業務

- 権利擁護に関する周知啓発（サロン、介護予防教室、研修会等　67回）
- 成年後見制度申立支援（２件）
- 高齢者虐待への対応（３件）・困難ケースへの対応（４件）
- 認知症カフェ「ほっこりカフェ・ぽんぽんカフェ」（３回）
- 認知症サポーター養成講座の開催（小学校、事業所、介護予防教室　３回）
- 認知症サポーター懇談会（１件）

③ 包括的・継続的ケアマネジメント業務

- 滝山地区居宅介護支援事業所連絡会（オンライン会議12回、事例検討会１回、オンライン研修会１回）
- 滝山地区小規模多機能型居宅介護支援事業所連絡会（オンライン会議４回、オンライン研修会１回）
- 介護保険サービス事業所連絡会（１回）
- 介護保険サービス事業所への YouTube 配信（第８期山形市介護保険事業計画、生活支援コーディネーター滝山地区第５期計画、たきやま地域包括支援センターの取り組み）
- 自立支援型地域ケア会議（４回）
- 個別地域ケア会議（６回）

• 介護支援専門員への個別支援（１回）

④　介護予防ケアマネジメント業務

ア　実績件数

事業所名	たきやま地域包括支援センター													
事業種別	介護予防支援										利用定員		－名	
項　目	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	計	月平均
予防給付者数	100	110	105	99	96	100	102	99	102	100	99	101	1,213件	101.1件
（内）委託者数	54	54	51	48	45	47	49	49	51	46	48	47	589件	49.1件
総合事業対象者数	97	98	102	98	95	99	103	102	102	98	98	106	1,198件	99.8件
（内）委託者数	24	27	26	23	24	23	21	20	18	17	18	23	264件	22.0件
認定調査件数	0	3	4	3	0	3	3	3	7	0	0	0	26件	2.2件
住宅改修件数	0	1	0	1	0	0	2	0	0	1	1	0	6件	0.5件

イ　介護予防事業

• 介護予防教室（フレイル予防）５回
• 介護予防に関する講話・周知啓発（15回）
• 通いの場・サロン等の継続支援（コロナ感染予防・体力測定　11回）
• いきいきサロンや介護予防教室での相談対応（23回）

⑤　関係機関等との連携

• 生活支援コーディネーター（通いの場の立ち上げ、地域ニーズの把握、ICT の活用等）
• 認知症初期集中支援チーム（認知症対応、認知症予防教室開催に向けた連携）
• 認知症地域支援推進員（認知症カフェ）
• 在宅医療・介護連携室ポピー（医療連携の啓発）
• 福祉まるごと相談員（複雑・多様化した家族問題の相談）
• グループホーム運営推進会議（通常開催１回、書面開催３回）
• 小規模多機能型居宅介護、地域密着型介護老人福祉施設運営推進会議（通常開催１回、書面開催19回）
• 東北芸術工科大学生による LINE 交流会の立ち上げの支援等（４回）
• 山形厚生看護学校からの実習生の受け入れ（２名）

Ⅸ　居宅介護支援事業所あたご荘

要支援・要介護の利用者及び家族等の介護者が、安心して可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい自立した生活を継続して営むことができるように支援した。支援にあたっては、新型コロナウイルスの感染防止に留意しながら行った。

また、対応が困難なケースについては、民生委員、病院及び地域包括支援センターと連携して課題の解決を図った。年間の請求件数は317件と昨年度を下回った。

令和４年４月から居宅介護支援事業所どうまちと統合し、新たに「居宅介護支援事業所たきやま」としてスタートすることに伴い、職員２名体制による支援体制の強化を図り、質の高いケアマネジメントの提供と請求件数の確保に努める。

① ケアプラン作成

事業所名	居宅介護支援事業所あたご荘													
事業種別	居宅介護支援										利用定員		－名	
項　目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
介護給付（件）	22	21	20	20	20	25	20	17	18	21	19	18	241件	20.1件
予防給付（件）	5	6	6	6	5	5	5	6	6	6	6	7	69件	5.8件
総合事業（件）	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	7件	0.6件
計	28	28	27	27	26	31	26	23	24	27	25	25	317件	26.4件
前年度件数	36	34	33	35	37	34	32	36	34	30	28	26	395件	32.9件

② 更新調査

項　目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
調　査　件　数	2	2	9	3	4	0	3	4	5	5	0	0	37件	3.1件

X　銅町デイサービスセンター

令和３年度の稼働率は64.8％となり、目標とした88%を23.2％下回り、延利用者数も令和２年度に比べ798人減となった。

新型コロナウイルスの影響が大きく、社会活動の制限や自粛を求められる中で利用を控えられる方が見られた。上半期は、前年度並みで推移したものの夏頃より体調を崩されて入院される方や施設へ入所される方が多くみられた。この間も新規利用者の確保を図ったものの、利用者の増加を図ることができなかった。

①　利用状況

事業所名	銅町デイサービスセンター													
事業種別	通所介護、介護予防・日常生活支援総合事業（通所型サービス）										利用定員		30名／日	
項　目	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	計	月平均
営業日数	26	26	26	26	27	26	26	26	26	24	24	27	310日	－
延利用者数（人）	540	557	531	534	539	511	495	497	484	447	417	474	6,026人	502.2人
１日平均利用（人）	20.8	21.4	20.4	20.5	20.0	19.7	19.0	19.1	18.6	18.6	17.4	17.6	－	19.4人
稼働率（%）	69.2	71.4	68.1	68.5	66.5	65.5	63.5	63.7	62.1	62.1	57.9	58.5	－	64.8%
平均要介護度	1.7	1.7	1.8	1.8	1.8	1.8	1.9	1.8	1.7	1.6	1.8	1.6	－	1.8
前年度の延利用者数	559	525	531	582	591	623	601	617	619	509	519	548	6,824人	568.7人
前年度の稼働率	71.7	67.3	68.1	71.9	75.8	79.9	77.1	79.1	79.4	70.7	72.1	67.7	－	73.4%

②　利用者拡大対策

ア　居宅介護支援事業所及び地域包括支援センターとの連携による新規利用者の確保

イ　シルバーハウジング入居者の利用開拓

③　ケアプランに添ったサービスの提供

ケアプランに基づき通所介護計画書等を作成し、利用目的を達成できるよう努めた。

④　健康管理

ア　視診・血圧・体温の測定、服薬の管理等による健康管理と健康指導を行った。

イ　レジオネラ属菌検査（年２回）や残留塩素濃度の測定を行い、浴槽水の衛生管理に努めた。

ウ　県の感染防止対策支援事業に基づく補助金を活用しながら、マスク・消毒液等の衛生用品を購入し、引き続き新型コロナウイルスの感染防止に努めた。

⑤　家族との連携

連絡帳の活用や送迎時の情報交換等で連携を図り、信頼関係の維持・形成に努めた。

⑥　関係機関との連携

居宅介護支援事業所・地域包括支援センターと連携し、適切なサービスを提供した。

⑦　栄養管理

毎月給食委員会を開催し、家庭の味を大切に食べる楽しみと季節が感じられる食事の提供を行った。

⑧　主な活動

ア　誕生会（毎月第４週を基本に１週間）

イ　季節の行事（節分・雛祭り・観桜会ドライブ・夏祭り・紅葉ドライブ・クリスマス等）

ウ　全体レクリエーション（頭の体操・すごろくゲーム等）

エ　個人レクリエーション（将棋・トランプ・オセロ・ちぎり絵・書道・創作活動等）

⑨　利用者家族及び地域への広報

センターだより「あかしや」を毎月、「せせらぎ」を年１回発行した。

⑩　地域交流

令和３年度もコロナ禍のため、地域のボランティア、慰問団及び介護体験学習の受け入れを中止した。なお、地域交流室は発熱や体調不良を訴える利用者の療養に使用した。

⑪　災害訓練

ア　避難訓練、消火訓練、通報訓練、住宅との合同訓練及び消防用設備等の点検(年２回)

イ　緊急時の体制確立

⑫　職員研修

ア　外部研修　０件

イ　内部研修　12件　72名

⑬　苦情解決の取り組み

ア　「ご意見箱」の設置

イ　センターだよりによる苦情受付体制の周知

ウ　利用満足度調査アンケートの実施（年２回）

エ　苦情　０件

⑭　高齢者世話付住宅生活援助員派遣事業（山形市委託事業）

高齢者世話付住宅（シルバーハウジング）に生活援助員を派遣して、安否確認、生活相談を実施し、関係機関と連携しながら、入居者の安全安心な生活の確保に努めた。

- 市営銅町住宅　　118世帯のうち、シルバーハウジング36世帯
- 市営薬師町住宅　60世帯のうち、シルバーハウジング18世帯

ア　安否確認

平日は毎日実施を基本に、入居者と相談して確認の曜日を決め、インターホン又は訪問等で安否を確認し、併せて健康状態の把握を行った。

〈銅町住宅〉

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	計
実施日数	21	18	22	20	21	20	21	20	22	19	18	22	244日
ｲﾝﾀｰﾎﾝ	264	239	246	222	237	213	223	239	255	220	207	255	2,820回
訪　　問	5	2	4	1	3	5	5	4	4	3	1	2	39回
そ の 他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0回
計	269	241	250	223	240	218	228	243	259	223	208	257	2,859回

〈薬師町住宅〉

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	計
実施日数	21	18	22	20	21	20	21	20	22	19	18	22	244日
ｲﾝﾀｰﾎﾝ	77	66	72	63	68	55	56	69	62	63	59	82	792回
訪　　問	14	11	11	10	7	5	4	8	5	4	5	5	89回
そ の 他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0回
計	91	77	83	73	75	60	60	77	67	67	64	87	881回

イ　生活相談

毎月相談日（月８時間）を設定し、各市営住宅の相談室で入居者からの生活相談に応じた。生活援助員では対応困難な相談内容については、関係機関と協議の上対応した。

〈銅町住宅〉

内容	相談の形態				計
	電　話	訪　問	相談日	その他	
医療・健康	0	0	1	0	1件
福　祉	0	0	1	0	1件
家　族	0	0	0	0	0件
その他	0	0	1	0	1件
計	0	0	3	0	3件

〈薬師町住宅〉

内容	相談の形態				計
	電　話	訪　問	相談日	その他	
医療・健康	0	0	0	0	0件
福　祉	0	0	0	0	0件
家　族	0	0	0	0	0件
その他	0	0	1	0	1件
計	0	0	1	0	1件

ウ　緊急時対応

緊急時対応は「緊急時対応マニュアル」に基づき、インターホン又は訪問により速やかに状況を把握し、迅速適正に対応した。夜間・休日の通報及び初期対応を警備会社に委託し、連絡を受けた場合は職員が迅速に対応した。なお、緊急通報システム機器の老朽化に伴い、令和３年３月末にシステム機器の入れ替えが実施されたことに伴い、入居者が新しいシステムに慣れるまで誤報が増加した。

〈銅町住宅〉

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	計
実報(時間内)	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1件
実報(時間外)	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1件
誤報(時間内)	12	4	1	0	2	0	0	0	0	2	1	3	25件
誤報(時間外)	22	8	3	4	2	1	2	1	3	4	0	6	56件
計	34	12	4	4	4	1	2	3	3	6	1	9	83件

〈薬師町住宅〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実報(時間内)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
実報(時間外)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
誤報(時間内)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
誤報(時間外)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件

エ　一時的家事援助

〈銅町住宅〉

燃えるゴミのごみ出し、蛍光灯・電球交換、電球買い出し、観葉植物の水やり、空調のスイッチ入れ、両足爪切り、家電品の組み立て　他

〈薬師町住宅〉

手足の爪切り、玄関・浴室電球の買出し・取り付け、蛍光灯の交換、調査書類等の記入支援　他

オ　関係機関との連携

毎月、市長寿支援課には入退院者・死亡者等の状況を報告し、生活状況や介護状況の悪化など困難なケースが発生した場合は、連携を図り対応した。

〈銅町住宅〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
包括支援センター	0	2	1	0	4	2	0	0	1	2	0	1	13件
サービス業者	1	0	1	0	1	0	0	1	2	0	0	0	6件
地域関係者	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3件
長寿支援課	0	4	3	0	3	3	1	0	0	2	0	3	19件
住宅管理センター	2	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	4件
そ の 他	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2件
計	4	7	5	3	10	5	1	1	3	4	0	4	47件

〈薬師町住宅〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
包括支援センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1件
サービス業者	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	2	5件
地域関係者	0	1	2	0	1	0	0	0	0	0	1	0	5件
長寿支援課	0	0	2	0	1	0	0	1	0	0	1	0	5件
住宅管理センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1件
そ の 他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
計	0	1	4	0	4	0	0	1	0	2	3	2	17件

Ⅺ　居宅介護支援事業所どうまち

住み慣れた自宅での生活を継続できるよう、利用者の生活背景に目を向け、家族、サービス事業者、関係機関と連携を図り、ケアプランの作成・実施に努めた。ケアプラン作成目標500件に対し、実績は405件であった。令和３年度もコロナ禍による社会活動の制限や行動自粛等の影響があり、事業所の活動そのものが様々な制限・制約を受けた結果、目標を下回った。

事業の実施にあたっては、新しい生活様式に沿った事業の実施を心がけ、入退院時の医療機関との連携に努め、地域ケア会議や研修会への参加、情報交換等を行った。

なお、令和４年３月末をもって本事業所は閉所し、居宅介護支援事業所あたご荘と統合して令和４年４月から「居宅介護支援事業所たきやま」としてスタートすることとなった。

①　ケアプラン作成

事業所名	居宅介護支援事業所どうまち													
事業種別	居宅介護支援										利用定員		－名	
項　目	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	計	月平均
介護給付（件）	34	36	34	32	32	34	34	34	36	33	31	31	401件	33.4件
予防給付（件）	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	4件	0.3件
総合事業（件）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件	0.0件
計	35	36	34	32	32	34	34	34	36	33	33	32	405件	33.8件
前年度実績	40	38	38	36	35	34	36	36	40	37	35	36	441件	36.8件

②　更新調査

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	計
調査件数	3	3	4	1	0	0	3	0	0	0	0	0	14件